

愛媛大学教育学部

第116号

同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部総務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



二つの「きょうどう」精神

愛媛大学教育学部 教授
教育学部附属中学校 校長併任

平松 義樹

「物で榮えて、心で滅ぶ」という言葉があります。現代日本の現実から発せられた未来社会への悲痛な警告だと思えます。深夜、大街道を徘徊したり屯したりしている若者の姿に接すると、日本の将来を案じてしまうのは私一人でしょうか。自らの言動を振り返ることなく、よくないことはすべて社会のせい、大人のせい、親のせいと、責任を他に転嫁する性向を示す若者が (Don't blame me syndrome) いかに増えてきたことか。自己中心主義の蔓延です。保護者も自己中心主義の言動がみられます。人口の都市集中化が進み、自然とのふれあいが喪失し、勤労体験

や直接体験が減少するにつれて、没個性化・非人間化の状況が露呈されているように、私の眼には映ります。

かつて、トフラールは世界を『宇宙船地球号』と称しました。まさに現代社会は地球的規模で動いており、今の子どもたちは、そういう世界の中で生き抜いていかなければならないのです。先行き不透明な時代であるからこそ、自らのライフプランをデザインし、それを実行に移すマネジメント能力を身に付けさせておく必要があるでしょう。自らの選択能力を高め、自らの結果責任がとれる力をどう育てるか。そのための「新しい学校」をいかに創造すればよいか、私たちの大きな課題です。

私は、昨年四月から附属中学校の校長を拝命し、いろんな方の力をいただきながら、次のような理念で学校運営をしています。

かつての社会は、「いかに生きるか」のヒントが子どもの眼に見えていたと思います。「生活」と「生産」が融合した共同体意識が

存在しており、「生産」と「消費」がみえる社会でした。子どもたちの「学び」は大人の生きざまの「まねび」そのものでした。現代社会はどうでしょう。「生産」と「生活」が分離し、子どもたちの眼には「消費」の世界しかみえなくなってしまうのではないのでしょうか。大人のすこさを「まねび」機会を子どもたちから奪ってしまったように思います。

学習とは、そもそも、学んだことを生活に活かし、それによって自分の世界を広げたり深めたりするために行われるものではないのでしょうか。本来、「生きること」と「学ぶこと」と「勉強すること」は、同じ世界の物語の中で綴られるものでしょう。それが社会の進展によって、膨大な知識が蓄積され、子ども達はそれらの知識の獲得を余儀なくされてしまった。知識獲得の道場としての役割が学校に担われ、社会の「人材」の選別・配分の機能が学校の役割になってしまった。

学校での学びが「学び」の自然な姿を崩壊させつつある。「将来のため、テストのために勉強しなさい」と言う教師や保護者のうわべの言葉を子どもたちは見抜き、そんな勉強は「不自然だ」と感じ、「学びから逃走」(佐藤学)を企てるのではないのでしょうか。

私は、そのような時代であっても、学校という空間には他にない大きな可能性が潜んでいると信じ

て疑いません。子どもたちが日々、集まって、一つの事柄を協働的に、持続的に、知的追究できる場所は、学校しかないと考えています。

ですから、私は「新しい学校」の姿として、自然や大人とかかわることによって、自然や大人のすこさを「まねび」教育を展開したいと考えています。「何を学ぶか」(What to learn) という視点から、「いかに学ぶか」(How to learn)、そして、「いかに生きるか」(What to live) という視点へシフトしていく学校です。

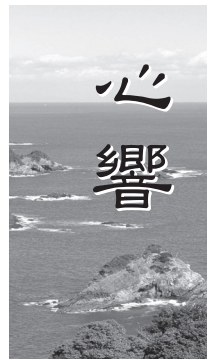
私は、名もなきもの、力なきもの、小さきものへ目を向ける感性、表通りではなく裏通りに目を向ける感性、ふだんは目立たない子への眼が向く感性を育てたいと思います。

東日本大震災を体験して、私は、今こそ、三つの「きょうどう」意識を育てる必要性を強く感じています。「共同・協同・協働」の精神です。かつてミウチとタニンの中に存在した「セケン」意識(規範・道徳等)を醸成することこそ、私たち大人の責務ではないでしょうか。この「きょうどう」精神、換言すれば「セケン」意識を核として附属中学校を日本一の「学び」ができる学校にしたいと考えています。皆様方ご協力、ご支援をよろしくお願いします。

「子どものそばにすべてがある」

目次

表紙
「鞆の浦旅情」……………二宮 亮二
題字 元愛大教育学部教授 菊川 國夫
三つの「きょうどう」精神……………(1)
教育学部教授 教育学部附属中学校長併任
心 響……………平松 義樹
授業「楽」のはじまり……………(2)
同窓会理事 村上 嘉一
学部は今……………(3)
研究室訪問
理科研究室「隅田 学先生 今日日は」
「魅力的な話し方講座」(三)
〜コミュニケーション能力のつけ方〜
合田みゆき(7)
学部トピックス……………(13)
「教育学部隅田学准教授平成二十四年度『野依科学奨励賞』を受賞しました」
「三・一一メモリアル愛大二〇一三犠牲者追悼集会で教育学部一回生中川智香さんが被災地への思いを込めて自作のオリジナル曲を演奏しました」
学部学生の地域連携活動
「わくチャレ戦隊スマイルつくるんジャー☆」
教育学部四回生 高橋 里奈(15)
学内最近のニュース……………(16)
・教育学部留学生歓迎会を開催しました
・今治市教育委員会と教育学部が連携協力事業の調印を行いました
文芸……………(17)
俳句「ふるさとに住みて」佐々木皓一
絵手紙「絵手紙で心豊かに」二宮 亮二
川柳「ポジティブへ頼る」仙波 弘子
短歌「日々の歌」山上 蒼



心響

授業「楽」のはじまり



同窓会理事
村上 嘉一
(昭三三卒)

筆者が中学校で理科教師をしていたころ、生徒が「世紀の大実験」と名付けた授業がある。もう、随分前の事であるが、今でも鮮明に思い出す。

少々堅い話になるが、大自然界の物体の運動を支配する根源的なまきは、あの大科学者ガリレオ・ガリレイが見つけた「慣性の原理」である。これを中学生にも「面白く」教えることができるか。生徒たちが我苦(がく)習ではなく、楽(がく)習して、それが可能なら、彼等の自然を観る目(自然観)を変えることができるとは違いない。これが授業で確かめたい「仮説」であった。教師になって、いろいろ試みたが失敗だった。気付いたことは、教える私自身が「慣性の原理」の本質を理解していなかった事である。高校・大学で物理学・力学を学んだのに、それは「我苦」習だったのかも？

米国の著名なノーベル賞物理学者フアイマンは「高校生レベルの知識層に説明して伝えることができなければ、その人は科学を理解しているとは言えない」と述べている。(出典、インターネット、<http://matome.naver.jp/topic/1LxyZ/>)

そこで、手始めに、ガリレイの著書の一つ『新科学対話』下巻(今野、日田訳、岩波書店、昭和三十九年)を調べた。この本は対話調で書かれている。内容の図解を試みたりしたが、私には「面白く」は理解できなかった。

暗中模索の私に光明を与えてくれたのは『ぼくらはガリレオ』(板倉聖宣著、岩波書店)と同氏の創り出した仮説実験授業「力と運動」の授業書や、その授業記録を読んだ時であった。私に「慣性」授業への課題意識が無ければこの貴重な情報を見逃しただろう。

早速、その授業資料に説明されていた実験装置をまねて、木製の小型斜面台(底面の厚さ1cm)を自作した。実験に必要な球は鉄工所でボールベアリング(直径26mmほどの鋼球)をいただいた。この自作斜面にプラスチックのガードレールを取り付け、鋼鉄球が斜面を転がり落ち水平方向に飛び出すようにした。飛び出し口の高さを45cmとし、水平方向に60cm飛びよう斜面上の鋼球のスタート点とする。次に飛び出し口の高さ180cmの実験では、スチールロッカー(高さ179cm)を代用し、その上に自作斜面台(底辺の厚さ1cm)を置いた。当時の生徒諸君が、「世紀の大実験」ジャンプ台の実験装置と名前をつけた。この名の様にスキーのジャンプ台を極度に縮小したものを連想すると、実験装置をイメージしやすい。

【問題】この斜面を鋼鉄球が転がり落ち始める点を同じにして、水平方向に飛び出す口の高さを180cmとすると、その鋼鉄球は水平方向に何cm飛ぶか。飛び出し口の高さは、先ほどの45cmの四倍である。

【生徒の予想分布】ア・60cmぐらい(5人)、イ・100cmぐらい(2人)、ウ・120cmぐらい(24人)、240cmぐらい(11人)

読者は、どう予想なさるでしょうか。一連の授業は仮説実験授業研究会の授

業書「力と運動」を基に進めた。本時は、どの様な授業展開となったか。

前述の異なる予想をめぐって、生徒たちが次々と発言し、活発な討論で授業が進んだ。さて、いよいよ「世紀の大実験」結果は如何に？

「誰も学んでいないのに教えたというなら、誰も買わない物を売ったと言うのと同じだ」は教育学者デューイの名言と伝えられている。授業の値打ちを生徒が決めることである。それを知るために、適時、生徒に授業感想文を書いてもらった。果たして、冒頭に書いた授業「仮説」は支持されたか。生徒たちの言葉で直接確かめてみよう。

【感想文①】「緊張の一瞬、先生の手がさつと上がった。鋼鉄球は実験台のレールを滑走する。そして空高くジャンプ。みごとな拋物線を描いて120cmの所に置いてある小さなパチンコ玉に「カチン」という快音を残して命中した。みんながドツとどよめいた。僕自身も近くへは落ちるだろうがみごとに命中するとは思っていなかった。しかし、自然とは何と精巧なものなのだろう。このみごとに実験をするために作られた実験台、村上先生の努力を僕は祝福したい。何回もやって、正確に当たるものと感心した。この実験をして、はじめて、今まで頭の中でモヤモヤしていた慣性というものがわかったような気がした。(中三男子・M君)

【感想文②】「慣性とは何か」と質問されて、ハイ、慣性とは、物体が今までの状態のまま進もうとする性質です、とひと通り答えられるようになったのは、いままでの学習のおかげである。最初は、何だかとても難しい法則を習うようで、正直いって、面白くなかった。電車の中で、目がねケースや切符を落して実験したり、自分が跳び上がってみたい頃、少しずつ興味がわいていきました。

研究大会の日、ビー玉の実験をした。たくさんの先生方が見ていらっしゃるし、村上先生の手に震えているのを見て、本当に当たるかと不安だった。カチンと音がして、みごとに当たった時は、本当に驚いた。自然は何と正確なんだろう。まさかこんなにピッタリと計算されたところに落ちるとは。あの実験のパチンコはすごかったなあと思う。何度やってもピッタリ、難しく、今の生活には、あまり関係ないように思っていた「慣性」が、こんなに身近に感じられたことはなかった。「慣性の勉強」は、ただ、「慣性」を理解しただけでなく、広くは自分の考え方や生活態度にも少し影響を与えたように思う。自然の正確さ、偉大さに本当に感心した。(中三女子・Oさん)

教師の「教える能力」とは、一体、何か。二〇世紀最高の物理学者アインシュタインは次のように述べている。

「大抵の場合、教師は必要な事項を理解もし、また教科として自由にこなすだけの力はある。しかし、それを面白くする力がない。これがいつも禍の源となるのである。：教える能力というのは面白く教えることである。どんな抽象的な教材でも、それが生徒の心の琴線に共鳴を起させるようにし、好奇心をいつも生かしておくかならない。(注①)

この授業で学んだ元生徒の皆さんから、今春、クラス会に招待された。宴酬の歓談時、心に響く言葉をいただいた。「先生、あの授業をもう一度!」

(注①、「アインシュタインの教育観」、『寺田寅彦全集』第三巻、岩波書店、昭和三十五年、十一ページ)
(筆者のウェブページ、<http://www4.ocn.ne.jp/~yomura/>)

先輩を偲ぶ……………(19)
林傳次先生遺稿集「把翠」を繙く(七)

叙勲・受賞……………(19)
会員の声

「四国遍路と愛大ミュージアム」 小野植元幸(20)

「人を偲ぶの記」西川 至……………(21)
一 昭和二十年青年師範群像一より
亡き友木村郁夫を偲んで・木村郁夫の生涯
木村と宮澤賢治

同期会

「田中毎実先生 退官記念パーティ」 三浦 倉充(22)

「愛師昭和二十二卒在京同期会」 武田 敏文(23)

「交流協定校のワシントン大学バセル校で「短期留学プログラム」を実施しました」

愛媛大学ミュージアムへの誘い……………(24)

原稿募集……………(25)

寄贈図書……………(26)

「廣川岳邦作品集」……………(27)

一 造形美六十年余の軌跡一

「アナログ叢書 人を偲ぶの記」

一 昭和二十年青年師範群像一

表紙絵「鞆の浦旅情」について……………(27)

平成二十五年愛媛大学教育学部

支部長会議報告……………(28)

平成二十五年同窓会役員一覧表……………(30)

寄付者・会報送料送金者名……………(26)

敬 弔……………(26)

放送大学入学生募集……………(20)

愛媛大学ホームカミングデー……………(23)

開催のお知らせ……………(23)

愛媛大と山形大との第三回

ジョイント美術展が開催されました(31)

浜田純子さんによる「魅力的な大人の

マナー講座」が開催されました……………(12)

教育現場等から同窓会へ

支援要請依頼について……………(27)



研究室 訪問

理科研究室

隅田 学先生 今日



四月新学期早々、陽光が柔らかく射し込む隅田先生の研究室を訪問しました。先生はこの三月末に「平成二十四年度『野依科学奨励賞』」を受賞され、今は超多忙な毎日をお過ごしの中で、先生から貴重なお話をお聞きすることが出来ました。

ご受賞の対象だった「幼年期から子どもの個性を伸ばし挑戦する心を育む科学体験活動〜キッズ・アカデミアーサイエンス〜」を中心に話をさせていただきました。



幼い時期から子どもの個性を伸ばし挑戦する心をはぐくむ教育へ向けて、愛媛大学キッズ・アカデミアーサイエンス〜

二十一世紀を迎えて、私たちが従来想定していた以上に、幼い子どもたちであっても有能生を示す報告が世界中で次々と報告されています。私たちは、キラキラと輝く目で自然の事物や現象に興味を持つ幼い子どもたちの素朴な疑問を、これまで人類が培ってきた叡智としての科学的な探究や思考へと十分に橋渡しできているでしょうか。私の研究室では、米国ウイリアム&メアリー大学才能教育センターや英国ケンブリッジ大学科学技術教育センターと共同で、幼年児向けの科学教育プログラムの開発研究を行っています。

「キッズ・アカデミアーサイエンス」は、幼い子どもの素朴な

知的好奇心を科学的な探究や科学的な思考へと深化・拡充することを目指す取り組みです。幼年期の科学学習活動は、生得的な要素を含み、持続的で拡がりや深まりのある知的探究を、感情豊かに協同で行うことが可能である点で、重要な今日的意義を持っています。

「キッズ・アカデミアーサイエンス」では、「水」「ヒトの体」「植物」などの各テーマについて、それぞれ三回分（一回約二時間）のカリキュラムと教材を独自に開発し、小学校一年生を中心に小学校二年生や幼稚園年長児を含めた子どもたちを対象に、愛媛大学にて、土曜日に開講しています。二テーマ（六回）終了後には、自由研究発表会も行います。これまでに取上げてきた主なテーマを以下に紹介します。

プロジェクト「科学者のお仕事」

プロジェクト「水」

Part1 「水の変身！」

Part2 「水の中にさとうが消える？」

Part3 「水は回っている」

プロジェクト「ヒトの体」

Part1 「元気に成長しよう」

Part2 「からだを感じてみよう」

Part3 「からだはいつも動いている」

Part4 「葉はいろいろ」

Part5 「植物の体もヒトの体も同じ？」

Part6 「芽が出るのはどんなとき？」

キッズ・アカデミアーサイエンスの指針

「キッズ・アカデミアーサイエンス」プログラムの開発・実践に際しては、次の四点を指針としています。

①子どもの「科学する心」を喚起する

「水」「ヒトの体」「植物」といった、身近で科学の基盤をなしているテーマ、科学概念を選び、子どもが自ら課題を明確にし、挑戦的に解決していくことを目指したプロジェクト型の活動にしています。活動の問いを工夫し、プロジェクト型の活動を行うことにより、幼い子どもたちが感情豊かに、そして挑戦的に学習に取り組むことが出来ます。

②子どもの「科学する心」を深化させる

電子ばかりや温度計、ピーカー等の測定機器や器具を積極的に使用し、数値化しながら分析的に思考する活動を含めています。測定機器や器具を効果的に使用すること

とによって、子どもたちは自分の五感を超えた認識が可能となり、思考が精緻・体制化されます。

③子どもの「科学する心」を拡充させる

幼年期特有の統合的な遊びや、生活の中の自然環境を通しての学び、他者との協同による学びとして、科学体験学習は非常に適しています。コアとなる科学概念を設定すると共に、国語や算数、家庭科、図画工作などに広く関わるような課題を含めています。個別活動と協同的な活動とをバランス良く含めるよう配慮もしています。

④子どもの「科学する心」を持続させる

実験ノートや資料ファイルを配布し、自分の学習活動を記録すると共に、活動の内容に関する図書や家庭等で行うことが可能な活動を紹介して、家庭や社会と連携した学びの継続、累積を促しています。

それぞれの講座で、子どもたちは、自分の個性を発揮しながら、夢中になって新しい学びに挑戦しています。白衣に身を包んだ小さな科学者たちは、テーマ「水」で三態について学ぶと、おならやゲップを気体の例として挙げ、帰路で保護者に雲は気体か液体かと尋ねました。水の循環について学

ぶと、ある子どもは自分の家の水道水の水源や浄化方法を調べました。別な子どもは家庭で様々な工夫しながら手作りの浄化フィルターを何度も作りました。テーマ「ヒトの体」で五感について学ぶと、大きな耳を持つ動物や嗅覚の敏感な動物を探す子ども、点字等で身の回りで目の見えない人や耳の聞こえない人のための工夫を調べる子どもがいました。栄養と成長について学ぶと、給食や家庭の食事の栄養バランスやカロリー計算を細かく行う子どもがいました。自分たちで心拍数が変化する条件を考えて実験をデザインし、役割分担しながら協同で調べて結論づけ、発表ができるようになりました。

負けないくらい興味を持って、熱心にメモを取りながら参加する保護者の方もいました。子どもたちの真剣なまなざしや深い洞察からの発言に驚き、カメラやビデオを持参されている保護者の方もいました。以下に、受講後、保護者から寄せられた声を一部紹介します。

—*—*—*

「まず、白衣についてですが、身につけると『何かこれから特別なことが始まるんだというスイッチが入った』らしく、そういった意識が生まれる重要なアイテムだったようで良かったです。子どもは講座に参加して、『いろんな実験ができて楽しかったし、まさか心臓がさわられるなんて思わなかった。体の中にあるんだよね、不思議な感じ』と申しております。また普段の生活で、今まで犬を可愛いとまででるだけでしたが、『なまあたたかい』『心臓がはやい』等観察することも増えたような気がします。そして、皆の前で、自分の実験を発表するという貴重な体験ができたのが良かったと思います。小さいうちから堂々と発表する姿勢を身につけさせたいと思っているので、本当に良い機会でした。お友達の発表を聞いて、自分も海水から塩を取ってみたい

と、また新しいチャレンジもしてみたくなりました。」
(小学一年女児の保護者)
「水をテーマにした講座を受講したことにより、身のまわりにおける水の変化に注目するようになりました。例えば、毎日湿度計の％をチェックして『今日も乾燥している』とか『湿度が高くなったから雨が降るかも』などと話しています。お風呂で鏡がくもればどうすればくもりがとれるかを考えています。あられが降った時『固体でおちてきた』と喜び、坪庭の水が凍っているのを見て表面から凍っている写真と撮っていました。」
(小学一年男児の保護者)

—*—*—*

幼い子どもたちであっても、自分が興味を持ったことへの集中力は高く、キッズ・アカデミア講座に参加した子どもたちは、途中のトイレ休憩の時間も惜しんで、二時間集中して一つのテーマについて学習活動を行っています。保護者が迎えに来ても帰りましたが、子どもも少なくありません。そうした子どもたちの知的欲求は帰宅途中でも、帰宅してからも続くので、保護者も大変驚くのです。キッズ・アカデミア講座は、保護者にも公開して行われています。子どもに

学校でもキッズ・アカデミアのような学びは可能でしょうか？
キッズ・アカデミアは幼い子どもたちが大学へ来て、通常の学校や園とは異なる環境で学ぶものですが、学校や園でも子どもの個性や挑戦する心を育むことは十分に可能です。

例えば、私が研究室の学生と一緒に、ものの動きに関する学習活動を開発し、愛媛大学教育学部附属幼稚園で三週間かけて実践を行いました。そのとき、園の教室の片隅を「振り子研究所」とし、子どもたちは自作の振り子を作っ

て、その動きについて自分なりに測定方法を工夫したり、友達と役割分担をしながら調べました。「発見ボード」を作って、すばらしい発見をした子どもには、そのことに関する写真と一緒に掲示しました。まさに科学者が自分の研究成果を論文にして発表するようなものです。そうしたら、朝、登園するとすぐにその発見ボードを見て、まだ誰も発見していない事に挑戦してみようとする子ども、〇〇くんがこの発見していることは本当かなあと言いながらより正確なことに迫ろうとする子どもなどが出てくるわけです。さらに発展すると、子どもたちでルールを作ったり、役割分担をしながら、活動が洗練されていきます。そうになると、新しいアイデアを創り出す面白さや、他の友達のアイデアの良さを認めて共有することができるようになりました。「〇〇くんは凄いなあ」とか、「〇〇ちゃんはやかったね。」といった発言が生まれてきます。

とりに出かけるようになりまし
た。テントウムシを採集するため
に求められるものは何でしょう
か。子どもたちは、テントウムシ
の『生息地』を発見しました。自
分たちが一生懸命に捕まえたテン
トウムシを子どもたちは飼育した
くて仕方がありません。それでは、
テントウムシを飼育するためには
何が必要でしょうか。子どもたち
は、テントウムシの『食べ物』を
発見しました。生物の食べ物と生
息地の様子はうまく対応してい
たはずで

て、その動きについて自分なりに測定方法を工夫したり、友達と役割分担をしながら調べました。「発見ボード」を作って、すばらしい発見をした子どもには、そのことに関する写真と一緒に掲示しました。まさに科学者が自分の研究成果を論文にして発表するようなものです。そうしたら、朝、登園するとすぐにその発見ボードを見て、まだ誰も発見していない事に挑戦してみようとする子ども、〇〇くんがこの発見していることは本当かなあと言いながらより正確なことに迫ろうとする子どもなどが出てくるわけです。さらに発展すると、子どもたちでルールを作ったり、役割分担をしながら、活動が洗練されていきます。そうになると、新しいアイデアを創り出す面白さや、他の友達のアイデアの良さを認めて共有することができるようになりました。「〇〇くんは凄いなあ」とか、「〇〇ちゃんはやかったね。」といった発言が生まれてきます。

同じ附属幼稚園の例ですが、より普段の活動を分析的に研究してみたい事例もあります。五月のある日、ズッコケランドで草花を摘んだり丘を駆け回ったりしているうちに、一人の子どもがテントウムシに気づき、四人でテントウムシ

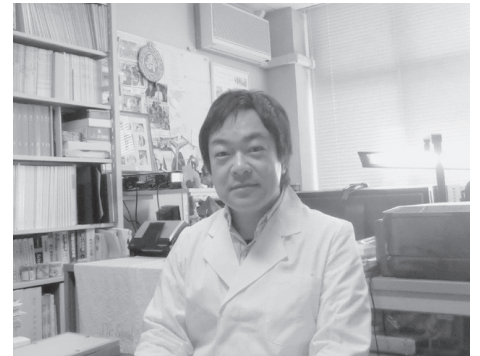
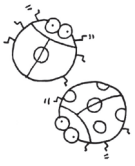
二週間にわたって、子どもたちは、テントウムシについて、様々な活動を自分たちで考えながら行っていました。その中の一人は、普段

二週間にわたって、子どもたちは、テントウムシについて、様々な活動を自分たちで考えながら行っていました。その中の一人は、普段

二週間にわたって、子どもたちは、テントウムシについて、様々な活動を自分たちで考えながら行っていました。その中の一人は、普段

からおとなしくて控えめで、保育者との一対一のかかわりを求め、保育者に依存しがちな子どもでした。その子が二週間にわたるテントウムシ活動を通して、友達をテントウムシが取れる場所へ積極的に案内したり、自分の気づきや経験をみんなの前で自信を持って話したりできるようになっていたのです。そこには、ようやく捕まえた小さなテントウムシへの思いや自己実現といった『内省的な学び』、自らの経験に基づく豊かな表現を伴う『言語的な学び』、採集や飼育などを通じた友人との情報交換や協力といった『対人的な学び』等の様々な学びの要素も含まれているのです。

子どもたちの学びは園だけではありませんでした。親子でサナギトりに出かけるなど、子どものテントウムシへの思いや気づきは家庭でも大切にされていました。学校園と家庭、地域社会との連携・協力が行われることによって、幼児の科学遊びは日常生活との関連が増し、より実り豊かなものになるのです。



外国の子どもたちと日本の子どもたちとで違うことはありませんか？

「外国」「日本」「子ども」というのはあまりにくくりが大きいので、私が見てきた中から、こういう事例がありましたというものを紹介したいと思います。

私が特に印象に残るものとして、「米国で理科の好きな子、得意な子のAグループとそうでない子のBグループとが一緒に授業を受けていた事例」があります。「密度」の実験で「メスシリンダー」に水を入れ、釘などの身の回りの様々なものを入れながら、それらの「体積」と「質量」を測定し、密度を計算する授業でした。身近なものを使い、実験を通して体験的に学ぶという点で、日本では伝統的に良い授業とみなされてきた

ものでしょう。しかし、授業の後にインタビュすると、Aグループの子どもたちは「この授業は非常に面白くない」と言ったのです。その理由がわかりますか。

その理由は大きく三つありました。一つ目は、もしある特定の物質の密度を正確に知るためには、例えばアルミニウムの密度を測ろうと思ったら、このような実験ではなく、資料を探す方が正確に分かるので、定量実験としては精度が悪すぎて面白くないというものでした。二つ目は、その授業では、理科の先生が実験プリントを事前に作っていて、空欄を埋めながら実験を進めていったわけですが、その子どもたちに言わせれば、先生が準備物も実験方法もすべて決めていて、自分で改良したり、工夫したりする部分がないということでした。初めから終わりまで全部決まったものをやらせられるということなのです。三つ目は、上に出してきたような観点の、あまり正確でない実験、そして決まった筋書き通りのことをやらせられることに加えて、それらをやる気の無い者と一緒にやらせられるのはどうかということでした。

こうした、学ぶ内容に興味関心が高く、背景知識も豊富で、ある意味非常に知的に純粋な子どもた

ちの個性や能力を、通常の授業の中でどのように伸ばしていくかというのは、これまで日本で十分に議論されてこなかったのではないのでしょうか。私の研究室では、今、多様な子どもたちの個性や能力をどのように認めて伸ばしていくか、教育の質的向上の在り方について研究を行っています。

次代の教育へ向けて

最後に、隅田先生に次代の教育へ向けて望むことを尋ねてみました。

まず、「良質な問い」の重要性を挙げたいと思います。新しいことを学びたい、挑戦したい心というのは、どの子どもも持っています。しかし、そうした学びや挑戦は、「答え」から始まるものではありません。「問い」から始まるのです。優れた科学者とは優れた問いを生み出すことができる／できた科学者に他なりません。例えば、シャボン玉で遊ぶ時に、「シャボン玉は綺麗だね」との呼びかけも重要ですが、続いて「シャボン玉の形や大きさを変えることはできるのかな？」と言ったらどうでしょうか。子どもたちは時間を忘れて挑戦してみることでしょう。実際、私が見たこの活動では、子どもたちは、シャボン玉の大きさを測定する方法まで自分たちで考えて、

実験を行っていました。

影絵遊びも子どもたちは喜びますが、狐、犬などの影絵が出来ただけで終わるのではなく、「この影絵の大きさはどうしたら変えられるのだろうね」と子どもたちに投げかけることでしょう。子どもたちは自分の手と光源との位置に関係があることを発見しました。光源のレンズの形にまで注目した子どももいました。「良質な問い」を作る練習とか、経験をさせるとかいうことがとても大切です。

次は、器具や道具を積極的に使ってみるといいのです。只単に「大きい！」と言うのではなく、何センチメートルと具体的な大きさを示したり、「重いね」だけの表現ではなく、「何グラム」とか言い始めると、議論が緻密になってきます。植物を育てて「大きくなった！」という表現も良いのですが、長さを測り、その成長していく様子をビニール紐の長さで置き換えて表現し、それを棒グラフのように並べると、成長の様子がより具体的に実感できるようになります。そして、その成長のプロセスも具体化できるのです。いつ頃に急に成長したとか、子どもが議論できるでしょう。また、「○○くんのはよく育っているけ

れど、私のは育っていない」といったように比較も可能です。そうすると「〇〇くんは何処に置いていたの」とか「どれくらい水やりをしていたの」とか、証拠に基づき議論の深まりが生じるわけです。子どもは物づくりも大好きで、それは大変創造的な営みです。

三つ目は、自分が興味を持ったことについて、こだわりを持って没頭して探究する活動を行うことです。決まった内容を、限られた時間の中でいかに正確に速く身につけるかということも重要ではあります。幼い頃から自分なりに試行錯誤しながらこだわりを持って思考や活動を掘げたり、深めたりすることが重要です。愛媛大学キッズ・アカデミアーサイエンス―では、六回の講座の後で、子どもたちが自由研究発表を行います。研究テーマは、各自で決めますから、同じ内容の発表はありません。一人約十分間、全員の前で発表を行います。自分の子どもの発表を見ている保護者の方も緊張するものです。発表が終わると、大学教員がその内容について質問を行います。予定通りにうまくいった子ども、うまくいかなかった子ども、発表が終わると自然に胸を張っていますよ。すべての講座の中で、自由研究発表会が一番よ

かったという子どももいるくらいです。幼い頃から、自分の興味を持った事柄について、こだわりを持って継続的に関わることは、人間本来が持っている知的欲求として非常に重要で、自己効力感の醸成にもなるでしょう。

最後に、自由研究発表会でも少し関わりますが、社会的な生き物である私たちヒトの学びは、そのプロセスや成果を他者と共有することで高まり、蓄積されていくことを挙げたいと思います。日本でも幼稚園でしたら、「はい、はい、はい」と高く手を挙げて、元気に自分の意見を言うことができず、子どもが沢山います。しかし、学年が上がるとどうでしょう。小学生よりも大学生の方が授業中に自分から質問することは少ないでしょう。自分が質問することで、その場、その時間の空気を乱してしまうのではとか、そのこと考えてしまい、遠慮してしまうとか黙ってやり過ごしてしまうことになつていくのかもしれない。しかし、分らないところを「分かりません」と直ぐ言えること、その場できちんと解決することが大切で、学校では、決まった時間に、決まったことを学びますから、しっかりと聴くことは大切なので

「幼い子どもの個性を伸ばし挑戦する心を育む科学者体験」10の指針

- 指針1 子どもたちの自発性や発見を重視し、挑戦的で系統性のあるプロジェクト型の活動にする。
- 指針2 子どもたちの独創的な思考を引き出す場面を含める。
- 指針3 身近で安価な素材を利用する。
- 指針4 科学のコトバを正しく用いる。
- 指針5 簡単な測定機器・器具を使用する活動を含める。
- 指針6 グループ活動と個別活動の場面を含める。
- 指針7 他領域や他教科と統合した活動に工夫する。
- 指針8 知的な側面のみ焦点を当てるのではなく、子どもたちの感情や情緒も重視する。
- 指針9 身近で季節性・地域性のあるテーマや素材を取り入れる。
- 指針10 家庭・社会との連携を促進する。



すが、次代を担う子どもたちには、そういう中であつても、納得のいくまで議論する、自分の考えや学習成果や作品を価値つけて発信できるような成長してほしいと願っています。

子どもの科学的な学びについて話す隅田先生は、まさに目を輝かせながら夢中になつて自分の考え

や経験を話す子どももよう、変化に富んだ引き出しから多角的に取り出される先生のお話は、実に具体的で興味があり、時間が経つのを忘れて聞き入ってしまった。

「野依科学奨励賞」は、二〇〇一年にノーベル化学賞を受賞した野

依良治博士の協力で二〇〇二年に創設された賞です。国立科学博物館が主催し、全国の子どもの優れた学習や探究をたたえる賞であり、併せて、子どもたちの科学する心を育てるために、優れた実践活動を行っている教員や科学教育指導者に対する表彰も行っています。

「愛媛大学教育学部サポーター制度」より

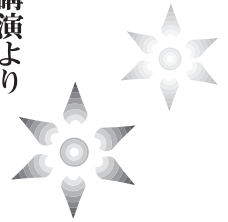
「魅力的な話し方講座」(三)

—「コミュニケーション能力のつけ方」—

講師フリーアナウンサー

合田みゆき氏講演より

(平五卒)



「皆さんこんにちは！」
(学)「こんにちは！」

このようにコミュニケーションの原点である、明るく元気で、感じの良い挨拶ができる、学生さんたちに沢山集まっていたいただき、ありがとうございます。

皆さんは、これから子どもたちと接する機会が、多くなると思えます。子どもは、先生の「話し方、喋り方」を通じて、先生の様子を敏感に感じ取るものです。話し方は、とても大切です。この九十分



間の中で、話し方の基本をお話ししていきます。その中で「この点は、気付いていなかった癖だな」等、自分の弱点を見つけ出してください。そして、きょうは、この講座が終わったら、すぐ、自分が気をつけようと思ったところを、気にかけてながら話すようにして下さい。自分は「こういう話し方を目指すんだ」と心がけるだけで、話し方は変わってきます。心がけ次第で、話し方は変わります。きょうは、魅力的な話し方のコツを、少しでも掴んで頂けると幸いです。

また、きょうは、ビデオカメラも用意しています。今回、初めての試みです。今後、皆さんは、いろいろな面接を受けると思いますが、自分はどういう姿で面接を受けているかを、客観的に見て頂こうと思って、ビデオ撮影をしてみることになりました。模擬面接の後、撮影した映像を見て、いろいろ指摘させて頂きますが、気を悪くしないで下さいね。指摘されたことをプラス思考でとらえてもらって、自分の今まで気がつかなかった癖を確認して頂ければと思います。きょう、ここに集まって下さった皆さん全員に、ビデオ撮影に登場してもらいたいのですが、時間の都合上、何人かに絞ってチャレンジして頂きます。



それから、もう一つ約束です。皆さん、きょうは、一つ一つの課題に、積極的にトライして下さい。自分の限界に挑戦してみてください。私が「声を出して！」と言ったら、「これ以上、自分は声が出ない、限界だ」と思うところまで、出してみてください。

それでは、早速、「話すこと」に重要な、声を出す練習をしてみましょう。では、その場に立ちま

しょう。(全員起立)これから大きな声を出します。なぜ、大きな声が必要なのでしょう？それは、教員になる人は、「教室や運動場で子どもに声が届くように」。また、民間に勤める人は、「プレゼンテーション等で、大きな声で話ができるように」です。大きくて、はっきりした声でないと、相手に充分伝わりません。

では、お腹から声を出す練習です。お腹から声を出すとは、お腹の底に力を入れて、それを支えにして、大きな声を出すイメージです。「腹式呼吸」を知っている方は、やってみてください。腹式呼吸は、息を吸った時に、お腹が膨らみます。実は、この「腹式呼吸」、皆さん、寝ている時に自然としているのです。きょう、帰ったら、仰向けになって、息をしてみてください。すると、自然にお腹が膨らみます。それが「腹式呼吸」です。

では、お腹の底から、大きな声を出そうと思って下さい。今から一斉に「アー！」と大きな声を出しましょう。限界まで挑戦してみてください。(合)始め！(学)アー!!(合)はい！良い感じです！発声している時の皆さんの表情も、明るくてとってもよかったです。明るい表情だと、明るい声が出ますよ。

続いて、「笑顔」の練習をしてみましょう。

皆さん笑ってみてください！そう！その笑顔、それが普段でも出るようになると思います！今、「笑ってください」と言われて、笑った時、顔の頬の筋肉が、ピクピクとひきつった感じがした人は、いませんでしたか？頬を引き上げると、ぱっと明るい笑顔になります。が、やりすぎるとひきつってくるので、ひきつる手前くらいで、抑えておいた方がいいと思います。

それでは、今度は、目にも表情

をつけましょう。笑った目にするためには、目尻を下げる感じにして下さい。鏡を持っている人は、鏡を見てもいいですよ。その笑顔を忘れないで下さいね。毎朝、顔を洗った後、洗面所の鏡に向かって、今の笑顔をしてみて下さい。そうすると、一日、笑顔でいられますよ。

次はその笑顔のまま、大きな声を出して「アエイウエオアオ」と、言ってみましょう。資料を見て下さい。「アエイウエオアオ」「カケキケケココカ」と、五十音を順に言ってみます。

その前に、口の開け方を練習します。資料に「アイウエオ」の口の開け方の写真が出ています。それを見ながら、発音してみましよう。(写真を見ながら、アイウエオの口の開きを確認)

では、本題の「アエイウエオアオ」を、発声しましょう。

発声練習で気をつけるのは、先ほど練習した口の開き方と、一音、一音、はぎれよく発音することです。言葉を発する時に、一回、一回、お腹に力を入れて、短く音を切っていくと、歯切れの良い音になります。五十音の中で難しいの

が、「ハ行」です。ハ行は「H A」と、Hの子音が、息が抜けてしまうので、発音しづらいです。それと、もう一つ「ラ行」も難しいですね。「ラ、レ、リ、ル、レ、ロ、ラ、ロ」この「ラ行」は、舌の使い方が難しく、苦手に感じる人も多いです。どのくらい巻き舌にしたらいいのか、具合がわからないと思います。そこで、ニュースを読んでいるアナウンサーなどと、いいと思います。ラ行の練習で、もう一つ、お勧めなのが「れる、れる、れる、れる」という発声練習です。舌が滑らかに回るようにもなりますよ。



次は、姿勢や、服装を確認してみましよう。「せ、め、て、あし、ふく、くせ」というのがあります。せ……背筋を伸ばす
め……目線は相手に
て……手の位置を落ち着かせる
あし……足をしっかり大地に
ふく……服装のチェック
くせ……言葉とふるまいのくせ

で、自分の姿勢や、服装をチェックしてみてくださいね。

では、実際にやってみましよう。まず、背筋を伸ばします。目線は、前に。足は大地にどっしりと着ける感じで。発声練習の時は、男女とも、足は肩幅より少し狭いくらいに開きます。ちなみに、普段の立ち姿勢として、女性は「モデル立ち」という立ち方があります。左右の足を、斜めT字型に組み合わせます。女性が椅子に座るときは、足のひざ下から斜めに流して座ると、足が綺麗に見えます。

次に、服装のチェックです。スーツを着たときに、襟が立っていないか、新調したスーツは、タグや、しつけ糸が残っていないか、確認してください。それから、言葉の癖に気を付けましよう。若い人は、よく「〜するじゃないですか

あ」と、言いますね。「〜しますよね」で、充分です。また、語尾を伸ばしたり、上げたりしないで下さい。そういう話し方は、幼く聞こえます。「せめてあしふくくせ」で、外見チェックをしてみてくださいね。

次に、表情についてです。例えば、嬉しい時の話は、嬉しい顔になりますし、悲しい話の時は、悲しそうな顔になります。そこで、これから色々な表情を、練習してみましよう。資料にある「みつめたみつけた」という短い文章。この「みつけた みつけた」という短い文章を、いろんな場面に合せて、表現してみましよう。例えば「探していたお店を見つけた



時」の「みつけた みつけた」は、どんな感じになりますか？
(学生A)「(大きな声で) 見つけた!!」
(合)「いい表現ですね」
では、「好きな人と一緒にいた時に、探している店が見つかった時」の「みつけた」は、どんな表現になりそうですか？

(学生B)「(可愛く) 見つけた!」
会場 笑いと拍手
では、次は、「ゴキブリを見つけた時」の「みつけた」は、どうでしょうか？

(学生C)「オーあつ、見つけた」
拍手

この様に「みつけた」という言葉、一つ取り上げても、いろいろな表現ができますね。子どもたちに教科書を読んで聞かせる時に、内容に合わせて、表情をつけて読んでみると、面白いのではないかと思います。「朗読は、感情を入れられないで、淡々と読む」という読み方もあります。もちろん、ニュース読みのように、感情を入れない読み方もできた方がいいのですが、子ども相手であれば、感情が入った方が、子どもに伝わる

と思うので、私は感情を入れて読む読み方をお勧めします。このように、感情を入れて読んで、子ども達の感情表現を豊かに、育んでみても良いのではないかなと思います。

次は、模擬面接をしてみましよう。面接は、控え室で待機している所から、既に始まっていますので、そこから試みてみましょう。

では、模擬面接を受けてみたい人はいますか？(男性Eさん挙手)では、Eさんに面接を受けて頂きましょう。



では、面接のマナーを説明します。この講座が行われている大講義室が、面接会場としましょう。まず、ドアをノックします。中指、

もしくは、人差し指の第二関節を使い二回ほどドアを「コンコン」とノックします。面接官の「どうぞ」の声で、入って下さい。ドアの開け閉めの仕方は、右手でドアノブを持って開けたならば、入室

後、左手に持ち替えて、静かに閉めます。その後、面接官の方に向かって「失礼します」と、三十度の敬礼します。面接会場にドアがなければ、入り口から一步入ったところで、「失礼します」と挨拶しましょう。その後、指示された椅子の横に立ちます。荷物があれば横に置きます。次に、面接官に自分の所属名と自分の名前を言ってお下さい。そして「よろしくお願ひします」と言ってお、四十五度位の角度で深く一礼(最敬礼)して下さい。面接官から「どうぞ」と促されてから、椅子に座ります。

Eさんは男性なので、男性の座り方を確認してみましよう。足は、肩幅よりやや狭めて座ります。

さあ、面接が終わりました。終わったら、椅子の横に立ち「ありがとうございますございました。」と、挨拶をしてからお辞儀をします。そして、出口に向かいます。出口の所で、向きを変え、面接官に「失礼



します。」と言ってお辞儀をし、静かにドアを開け、そして閉めます。しかし、これで面接が終わったわけではありません。面接会場を出て、仲の良い友達を見つけたとたん、大きな声で「ああ終わった!」と言ってしまうようになりますが、その様子も面接官には見られています。家に帰るまで、気を抜かないように心がけて下さい。

面接のマナーをお話ししましたが、これだけ手順を覚えるとなると、パニックになりそうですよね。そこで、マナーのポイントをまとめて見ました。これだけは、最低、守って下さい。



まずは「お辞儀をするポイント」。一か所目は、入室のドアの前、二か所目は、面接を受ける椅子の横、この二か所でお辞儀をするということ覚えてください。お辞儀の仕方は、まず、「よろしくお願ひします」と、挨拶の言葉を発してから、お辞儀をしてください。相手に挨拶してから、お辞儀をすることですね。それから、もう一点、注意することは、相手から「どうぞ」と言われてから、次の行動をとるようにしてください。ドアを開けて入室する時、椅子に座る時、相手から「どうぞ」と促されてから、部屋に入ったり、椅子に座ったりするのです。この「三つのポイント」、これさえ守れば、面接は乗り切れます。後は

平常心で、相手の質問に合わせて、答えていけばいいのです。

では、Eさん、部屋の外に出て、ノックから模擬面接を始めます。どうぞ。

指示された手順で、Eさん模擬面接に挑戦。その様子をビデオ撮影する。



Eさん、素晴らしいです。では、今のビデオを見ながらEさんの面接チェック)面接官の質問の答えに困った時に、照れ隠しで、笑わないことです。また、眼が自信なさそうに見えました。眼が泳いでいるように見えました。面接の時

では、面接のマナーを説明します。この講座が行われている大講義室が、面接会場としましょう。まず、ドアをノックします。中指、



には、相手の目をしっかりと見る方がいいのですが、相手の眼を見て話すというのは、結構、照れくさいものです。では、どうするか。それは、面接官の顔全体を見るようにすることです。それも難しい人は、相手の鼻と口あたりを見るのもいいかと思えます。しかし、あまり視線が下に落ちないようにしてください。Eさん、チャレンジして下さい、ありがとうございます。拍手」

続いて、女性のFさんをお願いします。入室のところからいきましよう。

「Fさんも、同じように模擬面接にチャレンジ」

では、Fさんも、模擬面接の様子をVTRを、再生してみましよう。

「再現VTR」

Fさんは、少し、動作が幼く見えてしまうのが、惜しいですね。歩く時が、うれしそうな感じで、びよんびよん、跳ねているような歩き方をしているのですよね。なので、一つ一つの動作を、ゆつくりとしてみるように心がけてみてはいかがでしょうか？鏡の前で、歩き方を確認してみるといいと思います。

続いて、もう一人面接に挑戦してもらいましょうか。

「男性Iさん、模擬面接にチャレンジ」

「Iさん、撮影したビデオを見る」

「(合) ビデオを見て、Iさん、感想はいかがですか？」

「(Iさん) 「はい、三つ、気になるところがありました。一つは、喋っている時や、部屋に入ってきた時、顔がこわばっていたのではないかと思えます。」

「(合) 「Iさん、今、お話ししている顔は、ステキな笑顔ですよ。その笑顔で話せるといいですね。」

「(学) 「二つ目は、声が少し低いので、淡々と聞こえました。少し意識して明るく喋る方が、印象を



よくなるのではと思いました。三つ目は、帰る時に、多分気が抜けていたのではないかと思います。私の動作が緩慢に見えました。面接官にあまりいい印象をもたれなかったのではないかと感じました。」

「(合) Iさん、ビデオを見て、よく客観的に分析されました。その通りだと思います。Iさんは、普段いい笑顔をしているのですが、面接になると緊張して、顔が強ばってしまつて、思っていたより声のトーンが、普段より低くなつてしまつたんだと思います。だから、日ごろから、喋り方について気をつけておかないと、このような面接の時に、思ったように、実



力が発揮できなかったりします。普段から、誰に聞かれても恥ずかしくないしゃべり方をするようにしてください。

「もつと、たくさんの方、できたら全員に、模擬面接を経験してもらいたかったのですが、時間の関係でごめんなさい、ビデオ模擬面接は、ここまでです。もし、家にVTRがあつて、撮ってくれるような協力者がいたら、一度自分の振る舞いを、撮影してみるといいかなと思います。面接の前に、客観的に見てみると、自分の欠点や、改善点が明確になりますよ。」

続いて、「コミュニケーションのつくり方ーコミュニケーションを上手くとるにはー」に、挑戦してみましよう。

普段、友達と話す時は、なんだ

かんだと話ができるのですが、知らない人と話をするとなると、どうしたらいいのか、途端にわからなくなってしまうことがありますよね。知らない人でも、話ができるようになる一番のポイントは、「相手との共通点を探す」ことです。お互いの共通点から、話を進めていくのですね。

ですから、「共通点を探す」ということから、練習してみましよう。ペアをつくつて、共通点を探してもらいますが、知っている人同士では、練習にならないので、知らない人同士で、ペアを組むようにしてください。(ペアを作る)

それでは、これから一分間、ペアで話し合い、相手と自分との間に、どれだけの共通点があるか、見つけ出して下さい。

では始めて下さい。



「一分かけて、相手との共通点を
ペアで探す」

共通点は、いくつ見つかりまし
たか？五個の共通点を見つけれ
たというペア（挙手してもらっ
た）、六個、七個……九個の共通
点を探せたペアが、最高でした
ね。では、九個あったペアに、お
互いの共通点を、発表してもらい
ましょう。Jさんのペアどうぞ。
(Jさん)「きょう、講座に参加し
ている、人間である、教育学部所
属、同じ学科、下宿生、車の免許
を持っている、麺好き、車が好き、
視力が悪い、の九個です。」
(合)「ありがとうございます。」
他に、Kさんどうぞ。
(Kさん)「学校教育教員養成課
程、チヨコレートが好き、二人と
も高校教師を目指している、今は
恋人がいない、学校が好き、ワン
ピースも好き、ラジコンが好き、
お互い若者、二人とも童顔 の九
個です。」

このように初対面の人と、共通
点を見つけると、そこからコミュ
ニケーションがとれますよね。学
生さんからの質問の中に「初対面
で、しかも年上の人とのコミュニ
ケーションをとるのが苦手です。

その時のコミュニケーションの取
り方を教えて下さい。」がありま
した。

年上の人や、上司と、初めて話
す時には、簡単に自分のことを紹
介しつつ、相手のことを知ろうと、
質問してみるといいですね。自分
のことはかり話していると、自己
中心的な感じになりますので、相
手が話しやすいよう、また自分の
ことも少し紹介しながら、相手の
ことも知ろうと質問してみてください。
いきなり深入りした質問をす
るのは、禁物です！

さて、続いての課題です。「話
し上手は、聴き上手」と言われま
す。聴くことが上手な人は、話す
ことも上手です。そこで「聴く」
という作業をしてもらいます。今
から、一分間、「今後、五年間でやっ
てみたいこと」をテーマに、ペア
でお互いに話してみてください。
一人は、ひたすら話す、もう一方
は、ひたすら話を聴きます。では、
どうぞ。

一分間、Aさんが話している時
は、Bさんは話を聴く。Bさんが
話している時は、Aさんは話を聴
く。相手の話を、黙って聞いてみて、

どうでしたか？ひたすら聞いてい
るだけだと、何か少し合の手を
入れてみたいと思いませんか？
か？多分、友達との会話だったら、
一分間の話のうちに、「そうだっ
たの」とか「それで？」とか、合
いの手を二つ、三つは、入ってい
るでしょうね。ひたすら聴くとい
う作業は、結構、辛いことな
ので。

そこで、今度は「話を弾ませる
ことができる質問を入れながら、
相手の話を聴く」という、試みを
してみよう。

今と同じ話(今後、五年間でやっ
てみたいこと)でもかまいません
から、その話に、合の手や質問
を入れてみてください。最低二つは、
質問や合の手を入れるようにし
てみてください。
一分間、相手の話に合の手な
どを入れながら、話を聴く。ど
うでしたか。コミュニケーション
の基礎をやってみました。

「相手のことを知る」「相手の話
を聞く」話を膨らみます。これが、
コミュニケーションの基本になり
ます。日常生活の中で、普段、何
げなくやっていることを、あらた
めて取り上げてみただけです。実

際、やってみると、コミュニケー
ションをとるって、簡単なことだ
なあと、思いませんでしたか。
コミュニケーションをとると言
うことは、まずは、自分が相手に
対して興味をもつということ
です。

これから、どんどん素敵なコ
ミュニケーションを、とっていつ
て下さいね！

最後に、皆さんからの質問にお
答えします。

Q「学校に行き、児童に話をす
る時に、どのくらいのトーンで、
どのように話しかければよい関係
がつかれますか？」

A「子どもの目線に合わせて、ゆっ
くりと話しかけるといいと思いま
す。」

Q「笑顔は、場面によって使い
分けはあるのですか？愛想笑いは
必要ですか？自然な笑顔をつくる
にはどうしたらいいですか？」

A「笑顔の使い分けは、軽い笑
顔の「ほほえみ」と、心から笑っ
ている「満面の笑み」とがあるか
なと思いますが、日ごろから、微
笑みの顔でいられるといいです
ね。愛想笑いは、へらへらしてい
る感じにも見えますから、要らな

いと思います。」
Q「目上の人、上司の人と話す
時、あがってしまうのですが、ど
うすればいいですか？」

A「確かに、目上の人に話をす
るのは、緊張します。それは、上
の人たちに、どのような言葉使
をしたらいのかかわからないこと
も、理由の一つだと思います。そ
こで、私は、目上の人や、取引先
の人に、礼状などの手紙を書くこ
とで、目上の人に対する言葉や文
章を身に付けようと、たくさん手
紙を書くことにしました。目上の
人に、拝啓から始めて、敬具で終
わるような、きちんとした手紙を
書くのですが、それをペンで、修
正液を使わずに書いていました。
修正液を使わないようにしようと
すると、何としても言葉をつなげ
て文章にしようとするので、文章
の練習、ひいては、しゃべりの練
習になるのです。それがスムーズ
に書けるようになります。話
し方もスムーズになってきた気が
します。話せないと言うことは、
自分が何を話しているのか分から
ないからだと思うのです。手紙を
書いていると、言葉が整理できま
す。文章の練習になりますので、

手紙を書くことはお勧めです。」

Q 「面接の時のメイクを含め身だしなみについて気をつけることは？」

A 「つけまつげは、つけないようにしましょう。薄化粧の方が好印象です。」

Q 「面接の時、笑顔を見せることはいいことですか。また、歯を見せる笑いはどうですか？」

A 「自然な笑顔の方がいいと思います。歯を見せるのは、にやにやしているように見えるかもしれないので、きょう練習した微笑みを、鏡の前で練習して、普段でも出せるようにしてみてください」

Q 「上司や先輩の人と会ったとき、どのくらい近づいてから挨拶をしたらいいのでしょうか。」

A 「先ず目が合うと、遠くにいたとしても一回軽く会釈をした方がいいと思います。そして、近づいた時に、声も出して、挨拶をするといと思います。」

Q 「取材した経験から、私達に役立つと思われることがあれば教えてください。」

A 「取材を申し込んで、いろんな事情で、断られることが多々ありました。私も人間なので、そ

の時は、少し悲しい思いをするのですが、この時は前向きに考えるようにしていました。「ああ、この人とは、縁がなかったんだなあ」って。これは、入社試験も同じで、何社も受けて落ちていると、落ち込むことがあります。自分を否定されたような気がするのですね。しかし、それでも、前向きに考え、「この会社とは、縁がなかったのだなあ」と、気分を切り替え、次の面接にトライして下さい」

最後になりましたが、私が学生の頃には、今回の講座のような卒業生から学ぶサポーター制度はありませんでした。こうした制度がある皆さんが、正直、うらやましいです。皆さん方は、このような素晴らしい制度を利用して、熱心に参加されました。今回の体験を今後の生活に生かして下さい。そして、教員採用試験や、就職活動で、十分に活用して下さい。今日お話ししたことが、今後の皆さんの学生生活に意義あるものになることを願い、私の講義を終わらせていただきます。ありがとうございました。

教育学部同窓生の浜田純子さんによる 「魅力的な大人のマナー講座」 が同学部大講義室で開催されました

平成25年6月6日（木）、教育学部大講義室で、愛媛大学教育学部同窓生でもあり、現在は（株）モアグロウ代表取締役の浜田純子さんが、「専門的な職業人としての使命感と多世代にわたる対人関係能力を身に付け、社会の一員として適切且つ的確な行動をするために」と、学部学生のために「魅力的な大人のマナー講座」と題して、豊富な経験に基づく実践的なワークショップを取り入れた講義をされました。

この講座は、多方面で活躍している同窓生を中心に依頼招聘して、現学生を対象に支援をする『教育学部サポーター制度』の取り組みの一環として、平成21年度からスタートし、早くも今回の講義が11回目となっております。今回も1回生から4回生まで約70名に近い学生が参加し、熱心に受講しました。

講義は、「魅力的な大人とは」のイメージから入り、「『丁寧な言葉づかい』だけで本当の温かさや感じの良さを受け止められるのだろうか」と問題を投げかけ、そこで、「魅力的な大人ならどうするか」との〇×クイズをし、「基本的なマナーの確認」として、『身だしなみで変わる第一印象』『あいさつで変わる第一印象』で、ロールプレイをし、「ワンポイントマナーコーナー」では、「電子メールのルール」を指導していただきました。

最後に、必要なのは、「形だけの接遇」ではなく、「目の前の人の気持ちや立場を考え、言動に移せることこそ『人ならではの魅力』」であること、心遣いをいかに形として伝えられるかが大事であることの話がありました。

参加した学生たちは、アンケートで、「魅力的な大人になるための基礎事項を改めて知った思いがします」「今日学んだ『メールのマナー』を早速役立てたい」「心遣いを形に表して初めて生きたマナーになる」と言う言葉が心に響きました」等の感想を寄せており、「魅力的な大人」になるためのマナーの重要性について多くのことが学べた講義になりました。



※ 講義の詳しい内容につきましては、会報117号でお知らせします。

教育学部隅田学准教授が平成24年度「野依科学奨励賞」を受賞しました。【3月27日（水）】

学部トピックス

教育学部理科教育講座の隅田学准教授が平成24年度「野依科学奨励賞（教員・科学指導者の部）」を受賞しました。

この賞は、平成14年より、国立科学博物館が主催し、2001年ノーベル化学賞を受賞された野依良治博士（現理化学研究所理事長）の協力を得て、子どもたちの科学する心を育てるために優れた指導・実践活動を行っている教員や科学教育指導者に対し、その功をたたえることを目的として創設されたものです。全国から応募のあった指導・実践報告書及び作品等が審査され、本年度は2人が受賞対象者に選ばれました。

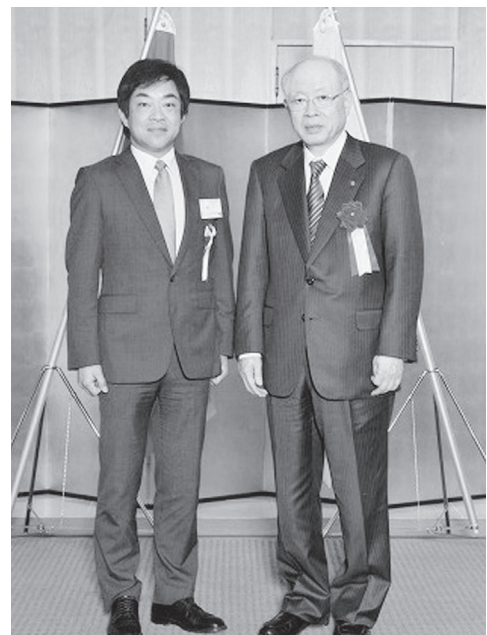
隅田学准教授は、「幼年期から子どもの個性を伸ばし挑戦する心を育む科学者体験活動～キッズ・アカデミアーサイエンスー～」というタイトルで、2010年から、愛媛大学にて、独自にカリキュラムと教材を開発し、小学1年生を中心に小学2年生や幼稚園年長児も含めて、土曜日に科学者体験活動の指導・実践を行っている取り組みを報告書としてまとめました。

「科学技術離れ」や「理科離れ」が危惧され、数々の政策が実行に移されているものの、我が国では幼年期から科学リテラシーを高めていこうとする試みは少ないのが現状です。「キッズ・アカデミアーサイエンスー」は、幼い子どもの素朴な知的好奇心を科学的な探究や科学的な思考へと深化・拡充させることを目的にした取り組みであり、特に、その実践に関わるしっかりとした理論立てとそれに基づいた明確な指導方針のある実践であること、大学を上手く利用した豊かな環境づくり、発表会等を含めた効果的なカリキュラム配列が高く評価されました。また参加した幼児の変容について、保護者から丁寧に資料を集めて分析している点も評価されました。

授賞式は、平成25年3月27日に国立科学博物館にて行われ、野依良治博士から直接表彰状と記念品が授与されると共に、交流会が行われました。



賞状と記念盾



授賞式（左：隅田学准教授／右：野依博士）

3.11メモリアル愛大2013 犠牲者追悼集会で
教育学部1回生中川智香さんが
被災地への思いを込めて自作のオリジナル曲を演奏しました

3月11日、愛媛大学で、東日本大震災被災地への思いを込めた「3.11メモリアル愛大2013 犠牲者追悼集会」がありました。

当日の追悼式で、教育学部芸術文化課程音楽文化コース1回生中川智香さんが、東日本大震災被災者の悲しみ、被災地の復興への希望などを表現したピアノ曲 "be living" を、「南加記念大ホール」前広場にて演奏しました。

中川さんは言います。「震災後、『何もできなかった』と感じてきたが、多くの人に被災地への思いを持ち続けてもらう方法を考え、『平和学』の授業のレポートとして作曲をしようと決意して、1月中旬に着手しました。」と。また、「想像を絶する被災地の惨状から、自分の力では、その被災を伝えられないと諦めかけたこともあったが、瓦礫の中でサッカーを楽しむ子どもたちや、ほほえんでいる高齢者の方たちの写真に勇気づけられ、“前向きで諦めない人間の素晴らしさ”を曲にしたいとの思いが湧いてきて、曲を完成しました。」とも。

曲は約10分、緩やかなイントロで幕を開け、地震発生を表す長い低音で暗い調べに。3連符で津波、暗い曲調で被災者の無力感と悲しみを表現している。後半は次第に明るい曲調へ変わり、力強く前向きに生きる人々を想像させるようにしあげています。

この演奏を聴かれた方は、きっと被災地を知り、思いを馳せ、必ずエールを送る気持ちになるものと信じています。

追悼式での演奏の様子は、インターネットの動画投稿サイト「ユーチューブ」に掲載されています。



「わくチャレ戦隊スマイルつくるんジャー☆」

愛大・東雲・八坂わくわくチャレンジサタデー

3C☆チャンスがあれば、チャレンジして、チェンジしよう！

教育学部教育学専修 四回生

高橋 里奈

私は二回生のときから愛媛大学フレンドシップ事業の「愛大・東雲・八坂わくわくチャレンジサタデー（わくチャレ）」に参加しています。愛大わくチャレとは、東雲小学校と、八坂小学校の五、六年生を対象に行っている活動で、公民館の方やそれぞれの小学校の先生方、大学の先生方等たくさんの方々の協力の下、学生が主体的に企画運営を行って行っています。月に一度活動しており、今年度で九年目になります。

どのような活動を行っているかという点、主に三つの活動から構成されており、一つ目は授業、二つ目は子どもたちの人間関係づくりのゲーム、三つ目は子どもたちが協力しながら楽しく活動できる遊びを行っています。現在、学生が十四名と子どもが四十五名の総勢約六十名で活発に活動しています。昨年度よりも子どもたちの人数が大幅に増え、子どもたちの数が増えてより楽しく素晴らしい活動を工夫できるように心掛けています。愛大わくチャレは、東雲小学校と八坂小学校の二つの小学校から子どもたちが来てくれるので、新しい子どもたちの「出会い」をサポートするための活動も工夫しています。また、私は小学校教員

を目指しているのです、わくチャレの子どもたちを一つの学級として、学級づくりや、様々な場面における子どもたちとの関わり方を学ぶ貴重な機会であると考えています。

さらに、主な三つの活動のみではなく、お楽しみとしてクリスマス会や遠足等も企画し、行っています。クリスマス会では、学生がサンタやトナカイになりきり、手作りのプレゼントを子どもたち一人ひとりに送りました。プレゼントを受けとった子どもたちは非常に嬉しそうに笑顔で、「ありがとうございます！やっつー！」と喜んでる姿を見ると、私たちが元気をもらいました。遠足では、広い公園を使わせて頂いて、「逃走中」を毎年行っています。子どもたちが主体となり、協力できるように、また一人ひとりの子どもの良いところが生かすようにミツシヨンを工夫したり、子どもたちの安全を第一に考えて活動を練ったりします。これらは、決して簡単なことばかりではありませんが、私たち学生にとっても、とても有意義で成長するための大切な時間となっています。

そして、今年度の愛大わくチャレでは子どもたちの目標として



「3C☆うれしい・楽しい・やさしい」を設定しました。昨年度までの子どもたちの様子を見てみると、子どもたち一人ひとりに、「わくチャレを楽しみたいです！」「三月の最後の活動で、このみんなと一緒に頑張ってきて良かったと思える集団にしたい！」というような思いはあるもの、ついそのときの感情で友達に強く言ってしまったり、「どうせ私なんか……」

と、自分に自信のない発言をしてしまったりする場面がいくつか見られました。このような子どもたちの様子を見て、誰にとっても「うれしい・楽しい・やさしい」集団であってほしいという学生の思いや願ひからこの目標を設定しました。これから、活動を進めていく中で、子どもたちの関わりや様子を見て、実態を把握した上で、子どもたちの思いをくみ取り、もう一度子どもたちの目標を設定したいと考えています。

また、私たち学生の目標も設定しました。それが、タイトルにもあるように、「3C☆チャンスがあれば、チャレンジして、チェンジしよう！」です。これも、昨年度の私たちの反省会の内容を踏まえて考えました。昨年は、子どもたちとの関わりの中で学生たち自身に迷いがあり、行動に移すことができなかったり、迷ってしまった場面が何度かありました。これらの反省を活かして、今年度からは「子どもたちの成長のため」になるチャンスがあれば、学生自身も自分から積極的にチャレンジし、その状況をチェンジしていこうという強い想いを込めて、今年度の活動への意欲を高めています。

「わくチャレは活動がたくさんあって大変そう、忙しそうだね。」と、言われることがあります。しかし、今までにわくチャレが大変だと感じたことはありません。それはやはり、私たちの活動を支えて下さるたくさんの方々、そして元気な子どもたちがいるからこそだと思います。

「次の活動ってなんするん！」「今日本当に楽しかったな！、来月も楽しみや！」

「次回はこんなことしたい！」と、子どもたちが笑顔で言ってくる姿を見ると、「本当にみんなで頑張った良かった。次の活動も絶対に子どもたち楽しんでもらえる授業や活動を考えてぞ！」というやる気が湧いてきます。わくチャレという場は、学生と



学生、学生と子ども、学生と地域の方々がたくさん素敵な「出会い」があり、人と人のあたたかい「つながり」がたくさんあります。たくさんの方々を支えて頂きながら、私たちが成長し、学ぶことのできる貴重な場であり、このような活動をさせて頂けることに心から感謝しています。

私たちのひそかな夢は、今子どもとしてわくチャレに参加してくれている子どもたちがいつかまた学生としてわくチャレに参加してくれるということです。人と人の「つながり」がいつまでも続いていくことは本当に素敵なことだと思います。

これからも、このような素晴らしい機会を頂けていること、たくさんの方々を支えて頂いていることに感謝し、チャレンジし、子どもたちと一緒に成長し続けられるよう努力し、笑顔あふれるわくチャレをつくっていききたいと思えます。

教育学部留学生歓迎会を開催しました

平成25年4月23日（火）、校友会館2階「サロン」において、教育学部留学生歓迎会（前学期）を開催しました。

本学部留学生は、今年度4月から新たに1名を迎え、現在8名が在籍しています。歓迎会には、留学生、教育学部長、指導教員、国際交流委員会委員、留学生チューター、事務職員などが一同に集い、12時から立食パーティー形式で行われました。

国際交流委員会・牛山先生の司会のもと、学部長の歓迎挨拶があり、4月に来日した学生や、研究生から大学院へ進学した学生、前回の歓迎会に参加できなかった学生がそれぞれ流暢な日本語で自己紹介を行いました。

和やかな雰囲気の中、留学生、チューターの学生さん達はお互いに自己紹介をしたり、記念撮影などをして交友を深めていました。

学内最近のニュース



歓迎会風景（1）



歓迎会風景（2）

今治市教育委員会と教育学部が連携協力事業の調印を行いました

【平成25年4月18日（木）】

平成25年4月18日（木）、教育学部は、今治市教育委員会の高橋実樹教育長を迎え、同委員会との平成25年度の連携協力事業の調印を行いました。

教育学部はこれまで、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、今治市教育委員会、伊予市教育委員会、松前町教育委員会、東温市教育委員会とそれぞれ連携協力の覚書を交わし、その活動を通して、教育研究、教員研修、教員養成について多くの成果を挙げてきました。

今治市教育委員会とは、平成15年の覚書の調印以来、継続的に共同研究を行っており、『研究報告書』（愛媛大学教育学部・今治市教育研究所）の形でその成果をまとめています。今年度は、昨年度に引き続き、「確かな学びを保障するカリキュラムの開発と授業の創造」というテーマで研究を推進することとしました。その趣旨は、「教育現場の諸問題の解決のために、理論と実践の一体化による研究を推進するとともに、教師の創意工夫を生かした授業を創造し、児童生徒に多様で確かな学力を身につけさせる」というものです。

教育現場の具体に即した継続的な研究の成果が期待されます。



握手を交わす三浦教育学部長と
今治市教育委員会高橋教育長

文 芸



俳 句

ふるさとに住みて

佐々木皓一

(昭三〇卒)

八十路に入つてこの一年間の四季のうつろひを抜粋してみました。郷土の近代俳句の先覚者松根東洋城の、一以貫之もの唯純情唯自然の教えを旨とし俳句を学んでいるのですが……。

——*——*

- 。風わたる岬十里や花の雲
- 。春潮や種子付け昆布揺れに揺れ
- (宇和海清浄化のお手伝い)
- 。春逝くや戦没石碑ひそやかに
- (この春、石碑建立の中心人物が八十四歳で病没されました)
- 。耕運機あと追ふ野鳩早苗寒

。植田水澄めり白雲映りゆく

。山よりの風が風追ふ青田かな

。古文書の農作日誌稲の花

(三間町毛利家の古文書の研究

を続けています)

。夕風やほつ／＼点る瀬戸の島

。かな／＼や一つ灯りし山の宿

。威銃峡にくまなき笹かな

。踏みどなき銀杏落葉や一揆の碑

(日吉村武左エ門の碑は今年も

金色の落葉に包まれていまし

た)

。弾みきて人なつかしも寒雀

。揚げ舟の揃ひ鎮まる冬の浜

。枯れ茅に坐せば土の香陽の匂ひ

。句を愛づを心の糧や年流る

(☎ 798-0043 宇和島市宇和津町

三三三二二)

絵 手 紙

絵手紙で心豊かに



二宮 亮二

(昭三五卒)

(教室生の感想文より)

移り変わる四季折々に咲く花々、野山に咲く可憐な草花、道端に咲く一輪の花に心を動かさせて、俳句に親しんでいる私。

そんな中、月一回の絵手紙教室に元気で参加するだけでも、健康管理と生きがいづくりに役立つと思ひ、二宮先生の指導のもと、三十四名の教室仲間と机を並べ楽しい時間を過ごしました。

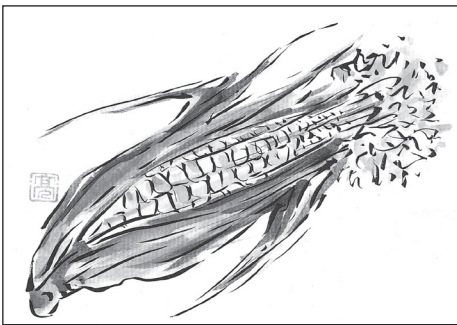
先生は「ハガキサイズだから、気楽な気持ちで描きなさい」と言われますが、それがなかなかで、

四苦八苦しながら、時間の経過するのがはやくて、お喋りする間もありません。

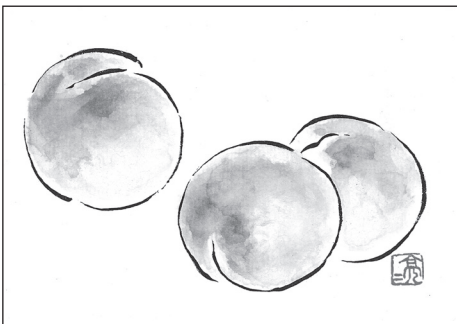
毎回、六種類の草花や果物・野菜など絵手紙の原画を描き、その後に季節の挨拶や知人の安否、暮らしの中での近況報告などの文言をいれます。出来上がった作品は、苦労して頑張った作品だけに、世界に唯一つの宝物です。

これからも、作品づくりを通して自分自身を見つめ直し、人と人との心の交流を大切にして、心豊かな日々を過ごしたいと思ひます。

(☎ 796-0066 八幡浜市本町 一八六)



トウモロコシ



桃



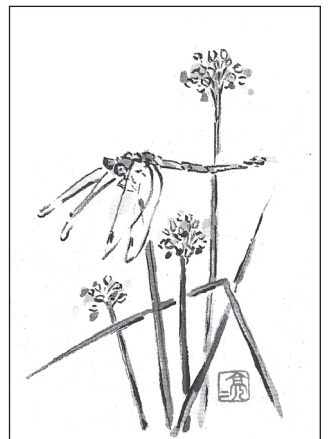
鹿の子百合



ぶどう



月下美人



ニラと赤トンボ

川柳

ポジティブへ頼る



仙波 弘子
(八塚)
(昭三三卒)

目 ポジティブなサインへ頼る四コマ

子の寝息から空色の発芽音

シャネル5にしましょう春のかくれんぼ

ラッキーを一本松と語り合う

B級グルメの旅へ年金手を挙げる

観覧車と話し込んでるちぎれ雲

逃げ腰の道には悔いの砂ぼこり

念じた方へ流れぬ桃を追っている

ドロドロを写経で漉してみるのです

じゃんけんの後出しパズル埋まらない

一病と握手遠くの山が見え

急がばまわれそして下弦の月に逢う

弥勒に触れて乱気流から覚める

原生林陽を奪い合うゆずり合う

命 双葉はいのち喰うアオムシもまた

命日へ辛い地酒とふるふきと

柔らかくあなたを縛る「またあした」

791-0244
松山市水泥町九一九



短歌

日々の歌



山上 蒼
(昭一九卒)

卒業の年次をかきながらいつも思うのは、繰り上げ卒業のことである。二年になると、師範学校が

専門学校に昇格する。したのはいいが、戦闘帽をかぶり、雪駄(八つ折れ)をはき、あまり風采は上

がらない。そして、工場や農村への勤労働員。ミッドウェイの海戦

後、戦局は不利な状況の連続。人間が爆弾となる特別攻撃隊が当然

視される状況となる。

○学校の上を回って南方へ去りし機影のその後を知らず

そんな頃の運動場で見た風景だった。きつと、一年先輩の予備

学生だろうと皆で噂したものだった。

卒業式には予備学生や特別甲種幹部候補生などで入隊した者の姿

はなく、確か、動員のクラスもあつたかと思われるのだが、どうであ

ろううか。卒業したら、面接もなく、教職が待っていたが、軍隊もまた待っていた。

海軍は三月間で敗戦となった。○南瓜みる度に軍の汁思う棘ある蔓が咽喉に絡むを

こうして復員後の教師の仕事が始まる。その中で最大の思い出は、勤務評定と学力テストの実施であった。

私と、連れ合いは昭和五十七年に退職。私は、叔父山上次郎の短歌会に印刷要員として加入し作歌が始まる。

○野の道を車に行きて窓よりも高き雑草の生う辻曲がる

これが、歌稿第一冊目の二ページにあつて、横書きである。戦前は和歌を作るといえば辞世を作る時かと思っていた者にとっては仕方のない第一歩であった。

それからは、地元の短歌会、東予短歌会、歩道短歌会に属し、一時は朝日新聞の歌壇にも時々入選

することにもなった。以来、作るも作ったり、三万一千首ほどの粗

製濫造。その中から抽出することにする。

○湿り田に溝きりゆけば流れ出す水たちまちに春日に光る

○枝打ちをすれば川辺の菜の花の輝き林の奥まで届く

○コスモスを初めて見たる感激を九十の父は今日もまた言う

○老体になお汗ありと呆れつつ鍬振り上げて馬鈴薯を掘る

○八十八のわれに湧くものまだありて汗を散らして草刈機振る

○畝ひとつ薙ぎて見やれば草白くはや乾きおり土用の風に

○草刈機が落果の文旦刎ねたれば夏の木下の匂さやけし

○蝉の声近年なしと思いが補聴器買えば庭にやかまし

○亡き妻のメモを頼りに紫蘇ジュース来たりし孫と共に作りぬ

○夜ごとに地域に通い子ら教え父母と語りし夢を見たりき

○占領の報喜びし幼さよ老いて今われミヤンマーに立つ

○古き家壊して集合住宅の高層すすむ地方の町も(中国)

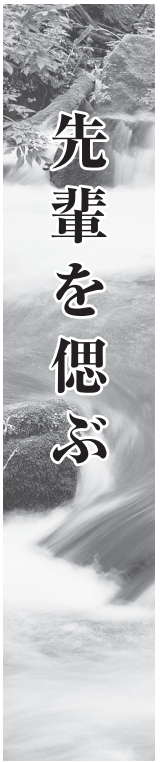
○七日前共に詣でし妻の墓今日はその子の死を告ぐるとは

○われを見て一週間後に死にし子よ別れを告げに来しと人言う

○瀬戸内の風流るる百本の公孫樹黄葉の只中に立つ

人生二十五年という時に生まれ、過ごした私は、長寿時代と言われる今、認知症に対峙している。地域の老人会などで、予防に励んでいる今日この頃の私である。

799-0703 四国中央市土居町藤原 一四



先輩を偲ぶ

林傳次先生遺稿集

「把翠」を繙く(七)

「巻頭言」集

『愛媛教育』誌より

【運動競技の武士道化】

近時運動競技が著しく普及勃興せることはやがて国民体格の向上を來す原因をなすもので、極めて悦ぶべきことであるが、其の反面に種々の害を醸成してゐることも亦看過すべからざる現象である。體質の相違、男女の性別、年齢の幼少等についての考慮を欠けることも憂うべきであらう、その最たるは競技試合の著しく興行化せることである。

甲子園グラウンドに於ける全国中学校野球大会は全国より選抜せられた二十校近くのナインが、炎天下に技を闘はずもので、其の真剣にして緊張せる試合は真に涙ぐましいほどの感激を与へるものであるが、或人は「応援の著しく華やかにお祭り騒ぎになつた事は苦々しい事だ」と新聞紙上に漏らしてゐる。松高グラウンドの四国大会を見てこの感がないではない。人の目を惹く様な揃ひの帽を付け、

余り高尚でもない歌に合わせて踊狂つたものの如きは、至純にして真剣なるべき学生の試合に不真面目な空気を注入するだけで、断じて応援の名を許すべきではない。

殊に一試合の終了後に起こつた騷擾の如きは松山市の運動史上に一大汚点を印したもので、而してこれが学生以外の人々、所謂ファンと呼ばれる人々によつて惹起せられた事は、試合の著しく興行化せることを雄弁に物語るものである。彼らファンの態度は恰も自己のひいきにせる力士の惨敗に逆上して、相手の力士の帰途を襲撃するものと毫も異なる所がない。

而も近年相撲道の著しく衰へたのはこの余りに興行化せることに基因すると称せられる。此の理論からいへば運動競技を衰頽させるものは、まさに此等誤れるファンであると言ふべきである。

吾人は飽くまでこの興行化の傾向を削減するとともに、之に代ふ

るに武士道の精神を注ぎ込むことに努力しなければならぬ。これが運動競技を正しく發達させる唯一の道である。(大正十四年九月号)

【不景氣と教育】

不景氣は愈々どん底までいつたと称せられてゐる。日々の新聞紙に不景氣、失業などの文字の見えない日とはなく、これから生まれる犯罪、一到底涙なくしては卒読に堪へぬ様な悲惨な犯罪物語も屢々見られる。かくて遂に教育の方面にまで其の影響の著しいく現れてきたのは、誠になげかわしい事といはねばならぬ。

最近新聞紙の報ずる所によれば大阪市の某高等女学校では九月に入つてから家計不如意の為に退学した者三名、父が失業して帰郷したため転校したと思はれる者六名、更に最近になつて月額三円二十銭の月謝の滞納が俄かに増加してきたといふ。義務教育である小学校の児童が不景氣の影響に脅かされるのは当然と言つては語弊があるが、とにかく頷かれる。然るに比較的裕福なる家庭の子女が集まつてゐると称せられる此の女学校にかくの如き現象が見られることは、不景氣も益々深刻になつてきた事を物語るもので、吾人は深く考へる所がなければならぬ。

とどのつまりまで行けば授業料

の滞納もやらうし、涙をのんで退学させることもある。然しどんなに苦しい思いをしても学校の事丈は人並みにやらせたいといふのが親の情である。だから生徒に何等の影響を認めないからといって手を拱いてゐてはならぬ。影響の明に見えた時ではもう遅い。平素と何等変化のない彼等児童生徒のうらに潜む暗い影を洞察して、早くこれが対策を講ずることが肝要である。

運動会の期節が来る。運動の奨励はよいが、お祭り気分の大騒ぎなどはやめて、なるべく子供の負担を軽減して欲しいものである。(大正十四年十月号)

【教育者の第一義】

教育といふ仕事の効果を左右する根本条件は、知識や経験よりも寧ろ仕事に対する熱情、児童に対する熾烈な愛であることは今更いふまでもない。松下村塾に於ける松陰の教育や、ノイホフに於けるペスタロッチの教育に於いて、其の原動力となつたものが此等の人の知識や経験であつたとは何人も考へないであらう。

先日県下補習学校長団の県外優良補習学校視察記を読んで強い感銘に打たれた。そして今更の様に一人の人の熱誠が如何に人を動かす如何に世を覚醒せしめるかに驚いた。黒土村の高橋庄造翁・田島

村の大森達氏・西志和村の丸山氏等は其の尤なるもの、勿論村の欠陥を洞察する炯眼と、之が救済方法を発見した達識とは非凡の者には相違ないが、然し之に加ふるに熾烈なる愛郷心がなかつたならば、かくばかり人を動かし村を動かす事は出来なかつたに違ひない。いや此等の人々に若し一身の私を忘れて只管に村民の福祉を希求する純情がなかつたならば、其の炯眼達識と雖もおそらくは表れなかつたであらう。私心を去つた純情、対象に対する熱愛、もつと言を換へて言へば熱烈なる天職感、これが教育の如き仕事に携わるもの、第一義的資格である。繰返していふ、知識や経験、それはどこまでも第二義的のものに過ぎない。(大正十五年六月号)

祝・叙勲

(平成二十五年四月二十九日)

☆瑞宝中綬章

教育研究功労 田中 純二殿

松山市東石井二一四一十七

昭二十七年 卒

愛媛大学名誉教授

教育研究功労 井門 義男殿

東温市牛淵六六一

昭三十三年 卒

愛媛大学名誉教授



会員の声

四国遍路と

愛大ミュージアム



小野植元幸
(昭二九卒)

平成二十二年八月、ミュージアム一周年事業として「三輪田米山展」を訪れた折「四国八十八ヶ所順拝展」もあった。「米山展」が主眼だったので「順拝展」はあまり関心はなかったが、八十八ヶ所の地図や順拝順や身支度用品・写真パネル等があり四国文化の礎となっていると気づいた。が、高齢（八十歳）になり、資料等より順拝したい気持ちは、芽生えていたので、順拝された方々の語りや体験を聞いて、「四国に生まれて、順拝しない」とは。息子が同行するということで六月末より「区切り順拝」スタート。順拝の仕方、コース、それぞれの寺の歴史を調べて、車で走る。

遍路道を調べていたら、私の居住地前が旧遍路道であり、水戸森峠手前、私の家より約五百メートル

ルの位置に道標があったが、高速道がついて道は寸断した。道標は「元禄二年（巳年）正月吉日」県下で二番目に古いもので故村上節太郎先生が調査で判明。現在内子町中央公民館に保管されていると記述されている。

四国八十八ヶ所順拝の風習が盛んになったのは、元禄元年（一六八八年）頃と伝えられている。

伊予市中山町の商家「玉井家文書」一六八七年（貞享四年）真念の四国最古「四国遍路指南」に次ぎ古い、江戸時代中期に作られた「四国最古級遍路案内書」が発見されていることも知った。

わが内子町に存在している道標旧五十崎町黒地坊。内子町石浦大師堂。内子町大瀬の今岡。三ヶ所あり、願主越智郡朝倉村、上村徳右衛門建立とある。

小田町中田渡の新田八幡鳥居の左の道標「是より菅生山迄四里」小田町倉谷臼杵神社前に「是より菅生山迄三里」この二道標も上村氏と大洲藩領の大瀬村出身の能幸、要蔵、徳兵衛の名が明記されている。

六月より始め十回で終えること

ができた。四十四中札所（大宝寺）より孫も参加して、親子三代で実のある順拝となった。寺々の歴史・巡拝の心得、四国遍路の元祖・衛門三郎の生家、石手寺とのかかわり、「四季ごと」に実る三間町の栗の木」他、四国遍路の願い、「家内安全・交通安全・病氣治癒・健康」等を祈願した。

順拝中は、天候に恵まれ、順番に予定どおり終えることができた。

親子三代間の絆が深まり、十一月下旬、高野山詣りして「結願」の報告。高野山では、歴史上有名な武士・有名人の墓も参拝できた。

昨年は、閏年、「逆打ち廻り」をする人も多く、逆廻りは、より幸せが多いといわれている。

順拝を終えて、ミュージアムでの「順拝展」が参考になった。健康・時間・体力・気力・金等の条件が揃うことを通感した。現職時に、休みを利用して「区切り詣り」をしていたら、児童生徒に還元できたのに。現職の先生方、順拝されていないOBの先生方々に勧めたい。来年は、千二百年を迎えるため、「世界遺産」を目指し、関係者等努力されている。順拝した一人として実現を願うものである。

☎ 791-3351 喜多郡内子町五百木 一五四

放送大学入学生募集のお知らせ

放送大学では、平成二十五年十月入学生（教養学部、修士選科生・科目生）を募集中です。

〈募集期間〉六月十五日～八月三十一日

平成二十六年大学院修士全科生学生を募集中です。


〈募集期間〉八月十六日～八月三十日十八時必着

放送大学は、テレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では、心理学・福祉・文学など、幅広い分野を学べますが、同窓会員特に現職の方々には、次に掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

○ 放送大学の大学院を利用して、**専修免許状**の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、**特別支援学校教諭免許状**

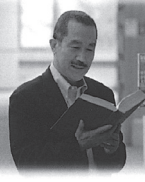


放送大学

教育に関連する科目を多数開講しています
一科目からでも学べます

平成25年度10月入学生募集
(平成25年8月31日まで)

愛媛学習センター
(愛媛大学内)
TEL 089-923-8544



○ 放送大学の講習を受講して、**教員免許更新**が可能です。

資料を無料でさし上げております。お気軽に、**愛媛学習センター**にご請求ください。

人を偲ぶの記

—昭和二十年

青年師範群像—より

西川 至

(昭二〇卒)

亡き友

木村郁夫君を偲んで

木村郁夫の生涯

「木村郁夫の生涯」などとタイトルを付けても、何ほども彼を理解しているわけではない。ただ縁あって折々の接点をもった彼との出会いを綴りあわせて「焼死した」という木村をお互いの心の中では生かしておきたい。

彼とは昭和十七年四月。青年学校教員養成所講習科の入学式以来の出会いである。冒頭の新聞記事に死亡年齢が八十六歳とあるから大正十五年の生まれであろう。私とは四歳の開きがあるので、私は「木村君」と呼び、彼は「西川さん」と呼んでいた。人格・能力の差別・区別ではなく、年齢の順という位

置づけが世の中では坐りがよい。

木村郁夫は西宇和郡保内町(旧宮内村)の出である。八幡浜からある程度入った場所で、彼が勤務していた青石青年学校?に行つた覚えがあるが、彼の家には寄らなかつた。結婚して細君の実家、八幡浜の松柏に寄宿していたところにその家を訪ねたことがあつた。

卒業後の彼との出会いはつきりしているものに、かなりの年数を経て彼の勤務校に立ち寄つたときの印象がある。学校は三崎半島の付け根に近い宇和海側にあつた。かつての伊方村か町見村の在だつたと思うが、彼はその小学校の校長になつていたと思う。

そのときぼつりと「あれはいろいろ意見があるが、やはり推進すべきでしょうな」ともらした。その地、伊方の原子力発電所の誘致建設問題でもめている時代だつた。

一昨年の福島第一原発の事故以来、原発関連で推進の意見を出すのは勇気のいる事象になつたが、まだ海のものとも山のものとも分らない時代は、私も含めて心配

より期待がかつていたと思う。くわしい論議はしなかつたが、地元の学校を預かるものとして、何らかの心構えを持つ必要があつた時である。この時がいつだつたか記録には平成元年八月「池田君の車で瀬戸町の井上悦夫さん宅を訪ねる」とあるがその時とは時間的に整合性がない。

木村と宮澤賢治

最初の出会いのころの彼はまだ十代の後半、少年に近い青年だつた。私の印象としてはシャイな感じの若者だつた。越智碩夫とも前田令香とも宮武宏とも違うタイプだつた。蓄膿ではなかつたらうが、鼻が詰まつたような感じの発音をしていた。作品は覚えていないが、よく俳句の話をしていた。それは教員になつてからも続いていたように思う。

彼の言動の中で一番印象に残っているのは「宮澤賢治って凄い人だよ」という意味のことを言ったことだ。今の時代では宮澤賢治は教祖のように扱われる存在だが、昭和十七、八年ころは、文学の世

界ではまだ多くの人びとに認められていない時代だつた。その宮澤賢治を買っていたのには驚いたが、私が触発されて賢治の作品を読んだ覚えはない。

ただ、かの有名な「雨ニモマケズ、風ニモマケズ……」の詩は私などもよく口ずさんでいたから、全く無名の人ではなかつた。宮澤賢治全集が十字屋書店から刊行されたのは、この人の死後六年たつた昭和十四年から十九年にかけてだという。木村はそれらの全集を求めていたのだろうか。

最近公民館で受講した講座で貰つた資料から、木村の若い時代を偲ぶ意味でも、宮澤賢治のプロフィールを抜き出しておこう。

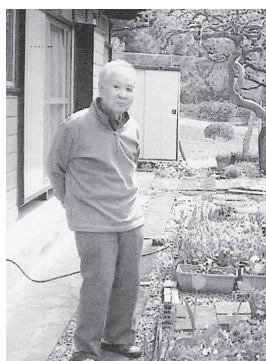
宮澤賢治

明治二十九年岩手県花巻市(現在)の宮澤政太郎の長男として生まれる。盛岡中学、盛岡高等農林卒。と書けば簡単なことだが、この間に何度もうつ状態で悩む時代があつたと。鉱物採集、星座、登山などに夢中になり、中学時代、浄土真宗の仏教夏期講習会に参加ともある。このことが宮澤賢治が仏教(法華経)と深い関

わりを持つきっかけとなつたのかと思う。昭和八年没。平成十一年三月の東日本大震災は、歴史上未曾有の大震災であつたが、三陸地方はそれ以前に近現代に二度大地震に襲われている。一回目は明治二十九年。この年賢治は生まれている。二回目は昭和八年、この年賢治は死んだと講師はエピソードとして紹介してくれた。

いまも取り上げられる『銀河鉄道』は生前は未発表作品だつたと。

(☎) 184-0011 東京都小金井市東町 一八一四



※同窓会員の西川至氏から『人を偲ぶの記』という三十九ページの冊子が事務局にも送られてきた。ご本人の承諾を得て、その一部を抜粋して掲載した。(S)

同期会



田中每実先生

退官記念パーティ

三浦 倉充

(昭五七卒)

四月二十七日、土曜日に、田中每実先生の退官記念講演と退官記念パーティを行いました。

場所は、最近できた愛媛大学内にある「校友会館」です。ここは、二階に講義室があり、一階には「セトリアン」というイタリアンレストランがあります。二階で講演をしていただき、一階でパーティを行いました。田中先生のゼミ生が企画運営いたしました。

参加者は、田中ゼミ生で、今回十八名が参加いたしました。先生との再会の喜びと感動でいっぱいとなりました。

田中每実先生は、昭和五十二年に、大阪大学人間科学部から講師として愛媛大学教育学部に赴任されました。昭和五十五年に愛媛大学教育学部助教となられ、平成三年、愛媛大学教育学部教授とな

られました。平成七年には、愛媛大学から京都大学へ移られ、十月に「京都大学高等教育教授システム開発センター教授」となられました。平成十八年には、「京都大学高等教育研究開発推進センター」に就任され、平成二十四年三月に退官されました。現在は、武庫川女子大学文学部の方に勤められています。

田中每実先生は、当時、教育学と教育史を専門にしておられ、教育学専修コースの学生を指導されておられました。ドイツ語の日本語解釈に始まり、ドイツ哲学、欧州教育の思想研究など、大学ならではのアカデミックな講義に魅了させられました。その頃は、金谷茂先生をはじめ、遠山順一先生、岡本一平先生、讃岐幸治先生、影山昇先生、南本長穂先生、そして

山本久雄先生と、愛媛大学が誇る蒼々たるメンバーでした。今思うと、すばらしい人的環境のもとで指導していただいていたのだなと改めて思いました。

当日、田中先生の講演会が始まると、一人ひとりが学生にかえり、一生懸命聞き入っていました。愛媛大学にいた頃のお話、特に「愛媛心理療法研究会」での事例を交えてのお話は実感のこもったお話でした。次に、京都大学での「高等教育教授システム開発センター」についてのお話。大学での授業改革に携わり、自らが公開授業をされ、授業者と受講生との相互生成を目指す「授業実践」、生態学的・現象学的研究や機器・調査票などによる実証研究のための臨床的研究としての「実験授業」、授業観察と授業検討会を通して授業者と観察者とが相互に研修する「(PO)」「公開授業」の苦労話をしていたいただきました。最後に、松山で家族と過ごし、「研究者になり、親になった、自分の生成のピーク」であったと言うことも話されました。「研究上も、常に、繰り返

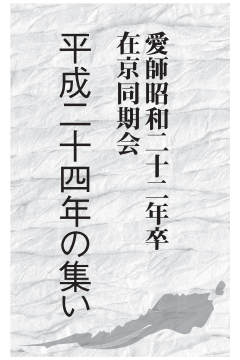
し、愛媛に回帰してきた」とも話され、「愛媛は、すべてが生み出される源泉だった」と言って講義

を締めくくられました。まさに感動の坩堝でした。数々の実践の話聞き、改めて、田中先生の偉大さを再認識させられたと同時に、自分の偉大さを表に出さず、ひたすら研究に没頭され、我々のようなゼミ生に対しても誠実に真剣に対応され、真心を持ってかわっていただく先生のお人柄に感謝申し上げます。田中每実先生、本当にありがとうございます。またございました。またこれを機会に、ゼミ生同士の久し振りの再会に花が咲きました。三十年振りに再会する者、二十年振りに再会する者、そして十年ぶりに再会する者と様々でしたが、本当に懐かしく、嬉しかったです。その夜は、真夜中の二時頃まで飲み明かしたゼミ生もいたとか……。ともあれ、お集まりいただいたゼミ生のみなさん、ありがとうございました。今後のご活躍を

お祈りいたします。そして、数年後にまた先生を囲んで同窓会を開きましょう……。それまでお元気で！



田中每実先生 退官記念パーティ



愛媛昭和二十二年卒
在京同期会

平成一十四年の集い



武田 敏文
(昭二二卒)

平成二十四年十二月十四日(金)に東京都東上野の鮎忠で、愛媛師範昭和二十二年卒の在京同期会を開きました。前もって覚えやすいと言うので、四十七士の討ち入りの日に決めています。

来年の在京同期会と愛媛なかよし会の合同懇親会の原稿の準備に追われ、今年と同窓会報の原稿依頼の準備を行かなかったので私が当日の報告を書くことにしました。

愛媛から久保田仁郎さんが昨年について東京都世田谷区のお孫さんの家に泊まりがけで来て出席してくださいました。

卒業直後の南予の音楽旅行の話をよく覚えていて楽しそうに話してくれました。

井原茂幸さんは今年の愛媛なか

よし会で、お住まいのある府中市の史跡めぐりの案内をしてくださいましたが、もう一つの特技の陶芸や絵画作品の個展を東小金井駅の近くで開きたいとの話に、次々と期待の声がかかりました。

玉田龍子さんは東京の師範学校の卒業と聞いていましたが出身は群馬県だと、今日知りました。故玉田泰太郎の奥さんで、彼が亡き後愛媛県の菊間の彼の実家へ、掃除などの管理に出かけていることは聞いていましたが、今年はお墓に名刺が供えてあったと話されました。いつもは故加藤幹さんの奥

さんの加藤貞枝さんと、藤本正義さんの三人で鍋料理の世話になっていたのが、今年は玉田さん一人で忙しく仕上げてくださいました。

高橋立身さんから「米寿までがんばろう。」との声かけに、しばらく米寿の文字に話の花が咲きました。

来年はもっと参加者の多い会にするために、愛媛なかよし会と合同で開



くよう私からお願いしました。愛媛なかよし会は関東愛媛教育会に集まる人数が少なくなったので、もっと気楽に愛媛に関係のある人で集まっている会で、今年で四年続きました。平成二十五年は、谷口さんから新橋駅近くの香川・愛媛物産店「せとうち旬彩館」の食堂の名前が出ました。後でお聞きすると、暖かい時期を希望されました。(二四・一二・一四記)

331-0063 さいたま市西区
プラザ八一の四)

第4回 愛媛大学ホームカミングディ開催のお知らせ



昨年の風景

ホームカミングディは、卒業生の皆さまや退職された教職員をお招きし、大学の「今」をお伝えするとともに、懐かしい母校でのひとときを過ごしていただきたいと思っております。皆さまのお越しをお待ちしております。

なお、詳細につきましては決まり次第、愛媛大学ホームページ及び愛媛大学校友会ホームページでお知らせいたします。

■ 開催日 平成25年11月9日(土)

愛媛大学 <http://www.ehime-u.ac.jp/>

愛媛大学校友会 <http://koyu.ehime-u.jp/>

交流協定校のワシントン大学バセル校で 「短期留学プログラム」を実施しました

愛媛大学教育学部では、交流協定を結んでいるワシントン大学バセル校（UWB）とその周辺学校や文化施設等を訪問する短期留学プログラムを平成25年3月2日（土）から3月18日（月）の日程で実施しました。

ワシントン大学バセル校は、愛媛大学の学術交流協定校の一つですが、これまでは工学部が中心となって交換留学などの交流を行ってきました。

前年度からは、教育学部の国際理解教育コースの学生を中心としたテーマ型プログラムを実施し、平成23年9月に第1回目の短期留学プログラムを実施しました。

2回目となる今回は、引率教員2人、学生10人（国際理解教育コース、英語教育専修、教育学専修、特別支援教育教員養成課程）に加え、愛媛大学教育学部附属中学校の教員1人の13人が参加しました。

プログラム概要は、地球的視野に立って、多様性への深い理解と、多様性を需要する広く開かれた心を持ち、多様性を活力や豊かさに変えていくことのできる人材育成を目指して、ワシントン大学バセル校で研修を行うことです。

このプログラムのテーマは「Diversity（多様性）」。「すなわち、多様な背景を持った人々がいかに共生していくか、というテーマです。

州都であるシアトルの名前が、ネイティブアメリカンの酋長の名前から来ていることが象徴するように、さまざまな人種・民族が共生するワシントン州では、州立大学であるワシントン大学を中心に、このDiversityへの取り組みが盛んに行われています。

一見、教育学部とは関係がなさそうなテーマですが、学校という場が、さまざまな背景を持った子供たちの集まる場所であることを考えると、Diversityというテーマやその取り組みを知ることは、教員志望の学生のみならず、現在教壇に立っている現職の教員にとっても、有益なことであることがわかれると思います。

本プログラムは、さまざまなDiversityの実践現場を訪問して、そこで働く人の話を聞いたり、それに基づいてディスカッションを行ったりすることが中心となります。

すべて英語で行われるため、語学研修的な要素もありますが、単なる語学研修ではなく、教育現場に必要な考え方を学び、教師としてのスキルアップを図るのにも役立つプログラムといえます。

今回の研修では、多種多様な人種・民族の生徒が集まるマリナハイスクールへの訪問と交流、ワシントン大学のQセンター（性的なマイノリティに対する支援施設）訪問、日系アメリカ人などのアジア系移民の歴史を伝えるウィング・ブルック博物館訪問、企業としてDiversityを積極的に取り入れているマイクロソフト本社訪問といった、昨年度も行われたプログラムに加え、UWBの学生たちとの交流・ディスカッションも行われ、より充実した内容となりました。

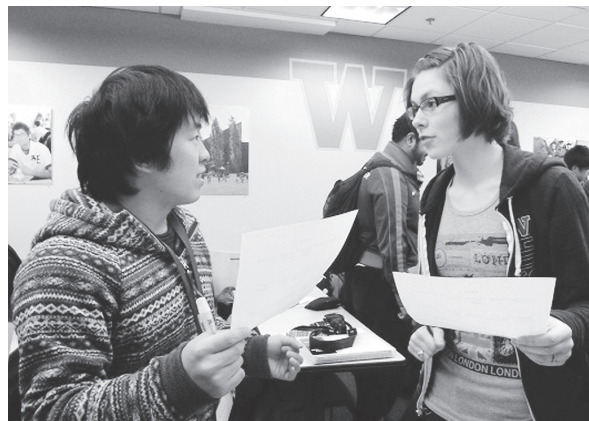
参加した学生たちにとってはかなりハードなものでしたが、全員が積極的に質問をしたり、UWBの学生たちとディスカッションをしたりするなかで、多くのことを学んだようです。

最終日の前日15日の夕方には、研修の総仕上げとしてのプレゼンテーションが行われ、UWB副学長のHung D. Dang氏から学生一人ひとりに修了証が手渡されました。

このプログラムは、来年度も実施する予定です。



研修風景 1



研修風景 2

愛媛大学ミュージアム (EUM) への誘い

愛媛大学ミュージアムは地域の人々とのホットな相互交流をめざしています

愛媛大学は、地域から信頼され、その期待に応えられる、「地域にあって輝く大学」をめざしています。このなかで求められている地域と大学との関係は、広く生きいきとした双方向性です。愛媛大学ミュージアムは、そのための新しいコミュニケーションの拠点ともいえます。

近年、愛媛大学の学術研究は様々な分野で高い評価を受け、国内のみならず国際的にも注目を集めています。愛媛大学ミュージアムでは、それらの成果の展示を通して、未知の世界へのチャレンジ精神や研究活動のおもしろさ・奥深さ、科学的メッセージなども感じとっていただけるようにと工夫されています。

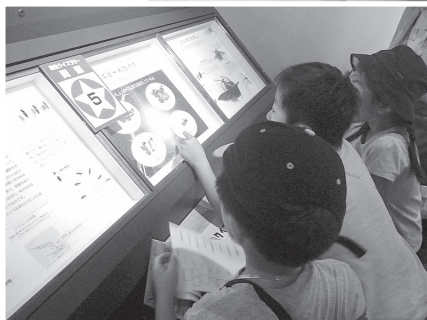
地域の方々が気軽に足を向け、展示を楽しみながらゆったりと滞在できる、また、来館者とミュージアム関係者との知的交流の場となるようなミュージアムをめざしています。

どうか、お仲間と誘い合わせ、ミュージアムへ足をお運びいただき、アカデミックで興味深い展掲示にひたりながらゆったりとした一時をお過ごし下さい。

愛大ミュージズ

Aidai Muse Bldg.

平成 25 年度 愛媛大学ミュージアム【常設展示・特別展・企画展】
年間スケジュール (予定)



会 期	名 称
7月24日(水)～ 29日(月) [予定]	〈企画展〉 〈仮〉愛媛の植物化石を知ろう [主催/企画: 理学部、EUM]
7月24日(水)～ 8月19日(月) [予定]	〈企画展〉 〈仮〉【聞きたい 伝えたい 戦争のこと】 : 愛媛大学の戦争体験 [主催/企画: 法文学部、EUM]
8月6日(火)～ 11日(日) [予定]	〈独自事業〉 昆虫展 2013 & 水生生物展 虫がいっぱい! 夢いっぱい [主催/企画: EUM、附属高校]
8月26日(月)～ 9月6日(金) [予定]	〈博物館実習事業〉 愛媛大学ミュージアムにおける博物館実習期間 [主催/企画: EUM]
9月27日(金)～ 28日(土) [予定]	〈企画展〉 愛媛大学附属高等学校 平成 25 年度課題研究成果発表 [主催/企画: 附属高等学校、EUM]
10月1日(火)～ 31日(月) [予定]	〈企画展〉 TREASURE カンファレンス: 子育て支援と教育・療育 [主催/企画: 教育学部、EUM]
10月2日(水)～ 3月31日(月) [予定]	〈常設特別展示 (第2ゾーン) 最終年度〉 第4回 三輪田米山展 [主催/企画: 教育学部、図書館、EUM]]
11月9日(土)～ 10日(日) [予定]	〈企画展 (例年企画)〉 あいだい博 2013 [主催/企画: 社会連携推進機構、EUM]
11月18日(月)～ 12月23日(月) [予定]	〈企画展〉 松山高等学校 (愛媛大学) 草創期の歴史の1コマ - 「青島守備軍司令部」寄贈ドイツ図書の発見- [主催/企画: 法文学部、放送大学、EUM]

会報送料・寄付者名

平成25・255

山田津也子 松木敬市郎 薦野安正 大野久子 泉唯雄 森田章夫 大内寿美子 井上清 渡邊孝生 小島奈美子 五十崎和朗 五十崎和子 相原隆志 示野敏郎 示野エミ子 岡田エミ子 乃村利恵 森茂喜 岩本郁夫 高須賀由紀江 東興三郎 源田員三 岡野勝敏 矢野一



原稿募集

次号 第百十七号 短くても結構です。多くの方々のお気軽なご寄稿をお待ちしております。

『会員の声』・「今、教育に思うこと」について、ふるってご投稿下さい。

同期会や支部同窓会などの集会や活動について

恩師・先輩・同僚の訪問や思い出について

職場の近況や所感や活動について

文芸(随想・俳句・川柳・短歌・詩・絵手紙等)について

会員便り

旅行記 4この頃思うこと 2季節便り 5忘れ得ぬ人など 3教育雑感

投稿が多数になった場合には、編集委員会でご了承ください。

原稿メ切 十一月三十日 発行 二月一日 予定

依頼者以外は千二百字厳守 四〇〇字詰原稿用紙の一行を十五字にして書いて下さい。

筆者の顔写真を添付してください。顔写真以外で内容に関連した写真もあれば送ってください。

敬弔 (物故会員)

(死亡年月日) (氏名)

Table with 15 columns and 4 rows of obituary information. Columns include date of death, name, date of birth, and name of the deceased. Includes names like 井上渉, 高橋大蔵, 松野木恒幸, etc.

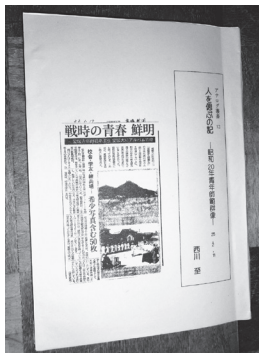
寄 贈 図 書



傘寿記念
「廣川岳邦作品集」
— 造形美六十年余の軌跡 —

編集・発行 廣川 岳邦
寄贈者 廣川 陽子
印刷・製本 重見 法樹
株式会社サン
判型 A4サイズ

※ 希望者に贈呈可(十冊)



アナログ叢書
人を偲ぶの記

— 昭和20年青年師範群像 —

寄贈者・著者 西川 至
発行者 西川 至
判型 B6サイズ



会報の送料納付

について

平成二十五年二月号でもお知らせしましたように、会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。
出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

記

①一年間五〇〇円で、二年間分ずつ収めるようになっていきます。

②二年ごとの更新は、煩さなので、何年間かを、まとめられる方もあります。

納付期限 毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。

送金方法 郵便為替・現金書留・郵便振替で

振替口座番号 〇二六四〇一七二七五四

送り先 〇七九〇一八五七七 松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会
領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。

教育現場等から同窓会へ
支援要請依頼について

教育現場等で、同窓会へ支援のご要望がありましたら、左記のような内容で、同窓会へご連絡下さい。

1. 支援要請のねらい
 2. どのような事を
 3. 何時頃
 4. 何処で
 5. 誰が、どのような組織が
 6. どのような方法で実施する
- その為、同窓会からの支援を要請したい。

要請連絡は、左記の所にメールして頂くか、FAX又はお手紙でお送り下さい。

dosokai @ ed.ehime-u.ac.jp

教育学部同窓会
インターネット
開設しています!

メールアドレスは上記

お問い合わせ、会報への寄稿、住所、勤務先変更などの諸連絡にご利用ください。お待ちしております。

表紙作品について

とも うちら
「軻の浦旅情」



作者 二宮 亮二
(昭三三卒)

愛大教育学部で美術を専攻した昭和三十五年、三十六年卒のメンバーが、昭和四十年に「グループ礎」を結成し「しっかりと地に足をつけて創作活動に取り組み、自己の確立を目指そう」といしずえ、と名付け、真摯な制作意欲と堅い友情に結ばれて、今日に至っている。

最近の活動は、作品の発表会と写生地巡りを隔年で実施して、昨年は神戸市立小磯記念美術館の小磯良平の世界展と特別展のマリイ・ローランサンとその時代展、兵庫県立美術館では、ピサロと印象派展を鑑賞し、その後は異人館街の散策を行った。平成二十三年は「第四十二回礎展」を松山市の萬翠荘で開催、平成二十二年は、歴史と文化の港町であり、国立公園第一号である軻の浦の美しい景観や古い家並みを訪れ、絵心を湧き立たせてくれた。表紙絵は、その時の情景を作品にまとめたもので、県展に出品した五十号の油彩画である。

略 歴

- 昭和四六年 (元) 創元会会員・審査員
 - 昭和五三年 (元) 大洋会会員・審査員
 - 平成五年 (元) 宇和島教育事務所長
 - 平成十二年 (元) 八市中央公民館々長
 - 平成十九年 (前) 県文化協会副会長
- (現在) ・グループ・創の会、代表
・八幡浜市文化協会顧問
・愛媛県美術会会員

796-0066 八幡浜市本町一丁目八六

平成25年度

支 部 長 会 報 告

1. 日 時 平成25年6月8日（土） 10：30～14：00
2. 場 所 愛媛大学校友会館（松山市文京町3）2F 大会議室

3. 日 程
- (1) 開 会 挨拶 会長・学部長
 - (2) 各支部長 挨拶
 - (3) 議長選出
 - (4) 議 事
 - ア 会則改正について
 - イ 役員改選に関する件
 - ★ 退任役員表彰
 - ★ 新旧役員挨拶
 - ウ 平成24年度行事報告
 - エ 平成24年度決算報告・監査報告
 - オ 平成25年度行事計画
 - カ 平成25年度予算案審議
 - キ 支部活動と助成金について
 - ク その他事務連絡
(内規に関する事項・会報発送・会館利・名簿 等)
 - (5) 閉 会 挨拶 副会長



4. 主な話し合い事項

- (1) 支部活動の活性化について



各支部長に前もって依頼していたアンケート等による提言を元に、支部活動をいかに活性化するかについて時間を掛けて話し合われた。昨年度は南宇和支部で「落語文化の普及を図る」のかけ声の下、地域の方々と協力し、古今亭菊志ん師匠をお招きし、大変盛会だったので、その経過報告を若田支部長にいただいた。

このように各支部とも予算が位置づけられているので、積極的な活動を公民館等と協力して計画してみてもとの提言があった。

- (2) 教育学部と同窓会との連携活動について



昨年度より予算にも位置づけ、教育学部では「サポーター制度」を設け、同窓生に働きかけ、講師になってもらい「コミュニケーション能力の育成」をテーマに、学生達に講演している。非常に学生に好評であり、今後とも学部と同窓会との絆を強めるため同窓会への協力をしようと意志決定した。

- (3) 「支部活動特別助成金」について



支部活動をより活性化するための具体的な方策として、上記にある「支部活動特別助成」を配慮している。その為の資料として、「支部活動特別助成金交付要綱」と「申請手続き」を紹介した。

- (4) 県外支部長の参加があった

岡山支部・岡田潤会長の参加があり、挨拶をして頂き、県外支部活動の現状と要望を話していただいた。

- (5) 今年度6人の理事が退任され、新しく、7人の新理事をお迎えした。

以上

平成24年度 行 事 報 告

平成25年度 行 事 計 画

4. 6 (金)	平成24年度入学式	学部生 237名 院生 45名
4. 18 (水)	平成23年度会計監査	監査実施
5. 11 (金)	第1回常任理事会	役員改選・同窓会活動・支部活動について
5. 26 (土)	第1回理事会	平成23年度行事、決算報告 平成24年度行事計画及び予算審議 役員改選案について審議
6. 7 (木)	学部サポーター制による講義	浜田純子氏「魅力的な大人のマナー講座」
6. 9 (土)	支部長会	平成24年度本部役員改選 平成23年度行事、決算報告 平成24年度行事計画及び予算審議
6. 14 (木)	第1回編集委員会	会報114号 校正
7. 1 (日)	会報114号発行	8,800部
7. 26 (木)	第2回常任理事会	後期同窓会活動・支部活動について
8. 3 (金)	第2回理事会	同窓会懇親会運営推進対策について
8. 25 (土)	第13回教育学部同窓会懇親会	ひめぎんホール真珠の間にて実施
9. 14 (金)	第3回常任理事会	懇親会反省報告、後期諸計画・次年度活動について
10. 27 (土)	支部活動支援・援助	南宇和支部 菊志ん師匠の「落語文化講演会」
11. 10 (土)	愛媛大学ホームカミングデー	教育学部同窓会参加
11. 29 (木)	学部サポーター制による講義	合田みゆき氏講演「第3回 話し方講座」
1. 8 (火)	第2回編集委員会	会報115号 校正
1. 12 (土)	第3回理事会	年間行事の反省 新年度諸計画について
2. 1 (金)	会報115号発行	8,800部
3. 22 (金)	平成24年度卒業式	卒業者学部生 229名 院生 52名

4. 8 (月)	平成25年度入学式	学部生 240名 院生 50名
4. 15 (月)	平成24年度会計監査	監査実施
5. 11 (土)	第1回常任理事会	役員改選・同窓会活動・支部活動について
5. 25 (土)	第1回理事会	平成24年度行事、決算報告 平成25年度行事計画及び予算審議 役員改選案について審議
6. 6 (木)	学部サポーター制による講義	浜田純子氏「魅力的な大人のマナー講座」
6. 8 (土)	支部長会	平成25年度本部役員改選 平成24年度行事、決算報告 平成25年度行事計画及び予算審議
6. 12 (水)	第1回編集委員会	会報116号 校正
7. 1 (月)	会報116号発行	8,800部
9. 6 (金)	第2回常任理事会	後期同窓会活動・支部活動について
9. 28 (土)	支部活動支援・援助	伊予支部 菊志ん師匠の「落語文化口演会」
11. 9 (土)	愛媛大学ホームカミングデー	教育学部同窓会参加
11. ()	学部サポーター制による講義	講演「話し方講座」
12. 7 (土)	第3回常任理事会	後期の諸計画・次年度諸活動について
1. 11 (土)	第2回理事会	年間行事の反省 新年度諸計画について
1. 11 (土)	第2回編集委員会	会報117号 校正
2. 1 (金)	会報117号発行	8,800部
3. 4 (月)	第4回常任理事会	25年度行事活動反省、次年度重点活動目標設定について
3. 24 (月)	平成25年度卒業式	卒業者学部生 名 院生 名

平成24年度 決 算 書

平成25年度 予 算 書

(収入の部) (単位:円)

費目	予 算	決 算	増 減	摘 要
1. 会 費	5,240,000	5,120,000	△ 120,000	入学者 256名 @20,000
2. 雑 収 入	250,000	285,895	35,895	利息、送料・寄付金等
3. 繰 越 金	3,745,855	3,745,855	0	
計	9,235,855	9,151,750	△ 84,105	

(支出の部)

費目	予 算	決 算	増 減	摘 要
1. 会 議 費	750,000	650,364	99,636	支部長会・理事会・懇親会
2. 旅 費	700,000	450,960	249,040	支部長会・理事会・懇親会
3. 印 刷 費	1,650,000	1,233,500	416,500	会報年2回・懇親会
4. 通 信 費	500,000	312,318	187,682	会報発送、連絡費、懇親会
5. 慶 弔 費	200,000	90,000	110,000	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	500,000	13,200	486,800	
8. 消耗品費	370,000	107,400	262,600	封筒、ラベル、コピー代等
9. 支部助成費	650,000	439,900	210,100	
10. 卒業記念費	400,000	434,070	△ 34,070	電波時計付フォトスタンド
11. 国際交流基金	250,000	250,000	0	
12. 支部活動支援費	600,000	73,387	526,613	
13. 学部活動支援費	500,000	340,340	159,660	
14. 積 立 費	1,000,000	1,000,000	0	
15. 雑 費	200,000	179,331	20,669	
16. 予 備 費	165,855	0	165,855	
計	9,235,855	6,374,770	2,861,085	

(収入の部) (単位:円)

費目	本年度	前年度	増 減	摘 要
1. 会 費	5,100,000	5,240,000	△ 140,000	入学者(240名+15名) @20,000
2. 寄 附	245,000	245,000	0	寄附金等
3. 雑 収 入	5,000	5,000	0	利息等
4. 繰 越 金	2,776,980	3,745,855	△ 968,875	
計	8,126,980	9,235,855	△1,108,875	

(支出の部)

費目	本年度	前年度	増 減	摘 要
1. 会 議 費	650,000	750,000	△ 100,000	支部長会・理事会
2. 旅 費	600,000	700,000	△ 100,000	支部長会・理事会
3. 印 刷 費	1,650,000	1,650,000	0	会報年2回
4. 通 信 費	450,000	500,000	△ 50,000	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	200,000	200,000	0	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	450,000	500,000	△ 50,000	PC・プリンター機器
8. 消耗品費	300,000	370,000	△ 70,000	封筒、ラベル・コピー代等
9. 支部助成費	500,000	650,000	△ 150,000	
10. 卒業記念費	460,000	400,000	60,000	電波時計付フォトスタンド
11. 国際交流基金	250,000	250,000	0	
12. 支部活動支援費	550,000	600,000	△ 50,000	芸能・文化支援
13. 学部活動支援費	500,000	500,000	0	学部サポーター活動支援等
14. 積 立 費	400,000	1,000,000	△ 600,000	
15. 雑 費	210,000	200,000	10,000	
16. 予 備 費	156,980	165,855	△ 8,875	
計	8,126,980	9,235,855	△1,108,875	

平成 25 年度 役 員 表

愛媛大学教育学部同窓会

本	顧問	三浦和尚・奥定一孝		監事	矢野裕司		常任幹事	菅田 顯
	会長	高橋治郎			相原孝裕			
部	副会長	立入 哉	峯本高義	村上朋子	友近温壽		山本千鶴子	
	理事	山本周三	長野照道	山下雅司	菊川國夫		満田泰三	
		村上嘉一	鎌田サチ子	和田和子	阿部 晋		替地和人	
		井出節雄	後藤陽三	垂水葉子	斉藤照夫		辻井芽美子	
		白石久美子	安田智美	井上真佐子	馬越 敏		白石貴士	
	森山由香里	片岡香織	武田恵奈					

支 部 名		支 部 長		副 支 部 長		副 支 部 長	
四国 中央 市	川之江・新宮	吉田 太	川之江北中	原田 尋	上分小	高木 淳	新宮小
	伊予三島	品川弘樹	豊岡小	野村 浩	松柏小	武田明敏	寒川小
	土居	鈴木恵子	長津小	高橋和紀	関川小	山川小百合	土居小
新居浜	横井敏行	新居浜北中	西原泰介	中萩中	菅 知子	神郷小	
西条	伊藤 俊	西条西中	高松賢二	西条西中	藤原知子	飯岡小	
東予・周桑	磯 明	小松幼	青野信樹	小松小	越智恵里子	壬生川小	
今治	八木良二	波止浜小	真鍋毅迅	今治西中	井原 涉	乃万小	
今治・越智	菅 昭彦	亀岡小	渡邊建男	大三島中	森 昇	下朝小	
松山・北条	佐藤敦子	立岩小	奥村幸二	難波小	堀内壽夫	北条南中	
松山	矢野裕司	和氣小	白石幸枝	湯築小	森 健	椿 中	
東温	篠崎邦裕	拝志小	高須賀秀喜	北吉井小	西山比登美	南吉井小	
伊予	山田智香子	北山崎小	田中 弘	砥部中	辻井芽美子	麻生小	
上浮穴	鶴久森 克	直瀬小	白石明範	直瀬小	森 美由紀	仕七川小	
大洲	岡田廣温	大洲小	横田 宏	喜多小	餘家幹子	大成小	
喜多	谷口利光	小田中	津國巳代子	御祓小	清水輝昭	小田小	
八幡浜	大西逸子	神山小	道岡喜好	宮内小	二宮あさみ	真穴小	
西宇和	辰野晴美	水ヶ浦小	音地淳市	九町小	尾上利治	伊方中	
西予	酒井史朗	皆田小	兵頭茂博	土居小	佐藤光博	明浜中	
宇和島	石丸光計	御楨小	都築高秀	天神小	木下 芳	御楨小	
北宇和	西村久仁夫	日吉中	永井 悟	松野西小	古谷玲子	三島小	
南宇和	若田 正	僧都小	安岡宏次	御荘中	濱見陽計	城辺小	
附属	武田恵奈	附特別支援					

外 支 部	東 京	兼頭吉市		山下正洋		森 孝枝	
	京 都	河野直樹					
	大 阪	神垣鉄雄		本宮 久		杉山容子	
	神 戸	木原孝造		平山 昇		加登康智	
	岡 山	岡田 潤					

編集委員	菅田 顯	峯本高義	菊川國夫	村上朋子	山下雅司
------	------	------	------	------	------

愛媛大学と山形大学合同 第3回卒業・修了合同美術展覧会を開催しました

昨年に引き続き、愛媛大学と山形大学で「第3回卒業・修了合同美術展覧会」をサテライトオフィス東京にて開催しました。

【展覧会概要】

- 会場：キャンパス・イノベーションセンター内（東京都港区芝浦3-3-6）
- 参加者：25名
 愛媛大学教育学部芸術文化課程造形芸術コース：7名（内2名は作品のみ）
 山形大学大学院地域教育文化研究科文化創造専攻造形芸術分野：2名
 山形大学地域教育文化学部創造学科造形芸術コース：16名
- 開催期間：2013年3月1日（金）～3月6日（水）
 3月1日：搬入・設置、ギャラリートーク、交流会
 3月2日：オープンセレモニー



オープンセレモニーの様子



ギャラリートークの様子



作品①



作品②



作品③



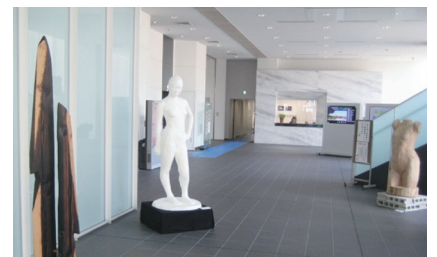
交流会の様子



会場の様子①



会場の様子②



会場の様子③

【展覧会を終えて】

キャンパス・イノベーションセンターで開催された本展覧会も今年で3回目を迎えることができました。本展覧会は学生にとって、他大学の学生との交流をする中で、自身の卒業研究を自己評価する大切な機会となります。今回は特に、愛媛大学と山形大学の学生どうして連絡を取り合い、学生が主体的に準備を進めてきた経緯もあり、昨年以上に、学生どうしの交流をみることができました。さらに、ギャラリートークにおいて学生が作品説明をする場面では、愛媛での卒業制作展のとき以上に、自身の作品に向き合い、自己評価を深めている様子をうかがい知ることができました。

また、会場を訪れた人の感想の中には、「Web プロモーションによる石鎚山の美味しい水ブランディングデザイン『ウチヌキノミズ』」(作品①)という愛媛大学の学生作品をみて、「愛媛に行ってみたくなりました」という一文もあり、本年度は地方大学の教育内容等の取り組みだけでなく、愛媛県の魅力を発信する場として重要な機会であることを実感できる展覧会となりました。

最後になりましたが、本展覧会を開催するにあたりご尽力を頂いた関係者各位にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。